され、発見されたほとんどのものは刻々と変化する中間形態と把握される。なお、機能の中には未分化なものを多分に含んでいる可能性があり、用途等の違いが全くなかったことを意味するものではない。

註(1)　「西田遺跡」(前掲)　「大館町遺跡」(前掲)

6、まとめ

当調査区は他地区と同様、土取り作業中に発見されたもので、取り残された限定された地域である。従って不確定要素を多分に含んでおり、遺跡全体の性格に言及できるものではない。しかし、今後調査によって資料の増加は望めなく、限られた資料ではあるが、その一端に触れることにする。

調査地内からは竪穴住居跡3棟と炉跡、焼土遺構が4例発見されており、集落を形成していたと見られる。その範囲は確認すべくもないが、約50m離れた第Ⅳ地区においても竪穴住居跡が発見されており、おそらくは続いていたものと推測される。また、遺物の分布によっては南方に連なることが予想され、少なくとも東西約130m、南北約30m以上に広がっていたと考えられる。すると住居地域は夏油川によって形成された扇端部に位置していたことになり、段丘崖に添って占地していたことになる。その時期は土器によると縄文時代中期前葉から中葉にかけてであり、竪穴住居跡の中には建て替えられたと考えられるものがあって、ある程度の時間差を有するものと見られる。

その後、竪穴住居跡を破壊する状態で住居地域とオーバーラップして、遺物包含層が形成されたと見られる。包含層遺物は住居跡遺物と同様、縄文中期前葉から中葉にかけてのものが主体をなし、若干早期末から前期初頭のものが混入している。その供給地は竪穴住居跡等が考えられ、特に、遺物の分布密度から調査地南方に求められる。その原因には人為的行為（廃棄の場）を否定するものではないが、洪水等が想定される。

なお、時代が下って、中世から近世にかけてはその一部に墳墓群が築成され、遺物包含層が攪乱されて、遺物が封土に集中している。以上のことをまとめると次のようになる。

①当調査地は集落の一部分ではなかろうか。

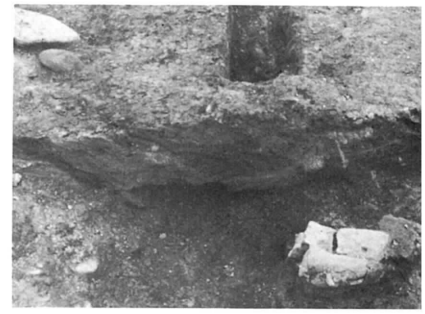
②その後、洪水等によって竪穴住居跡が埋没し、同時に遺物包含層が形成されたものではなかろうか。

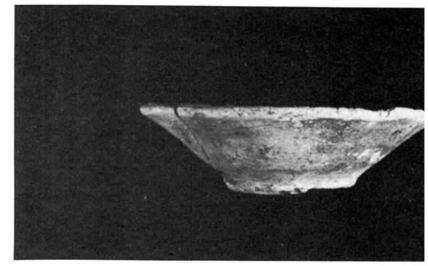
③そして、中世の墳墓群が築成されるまで、顧みられることがなかったものではなかろうか。

図　　版

第Ⅰ地区

左　1号焼土遺構
　　焚口から
右上　1号焼土遺構
　　横断面
右下　1号焼土遺構
　　焚口付近出土坏

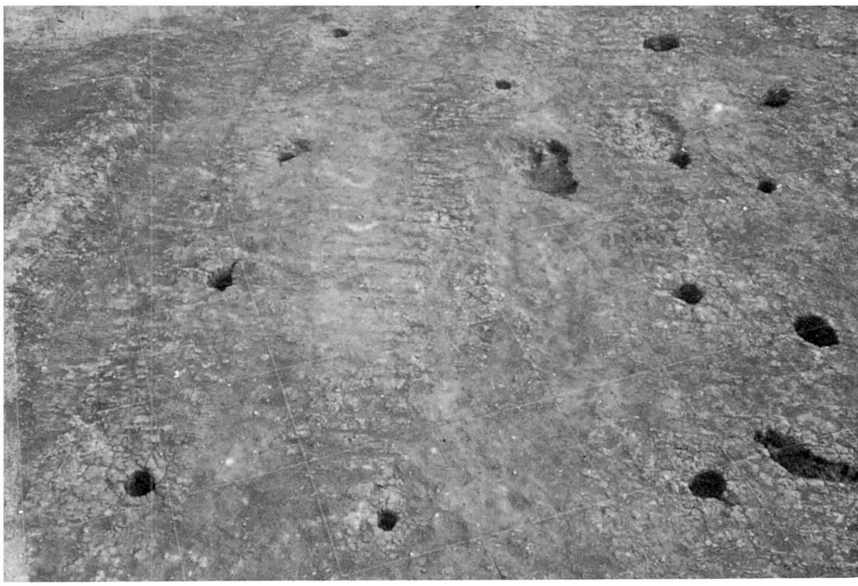




2号焼土遺構

3号焼土遺構

図版　1



1号掘立柱建物跡
北方から

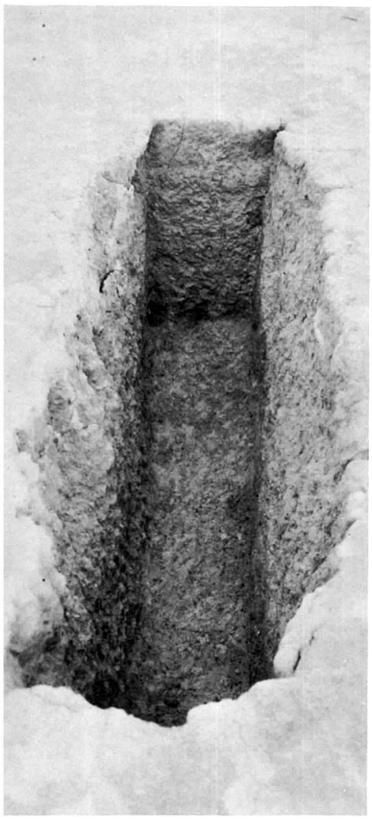
2号掘立柱建物跡
南方から

3号掘立柱建物跡
北方から

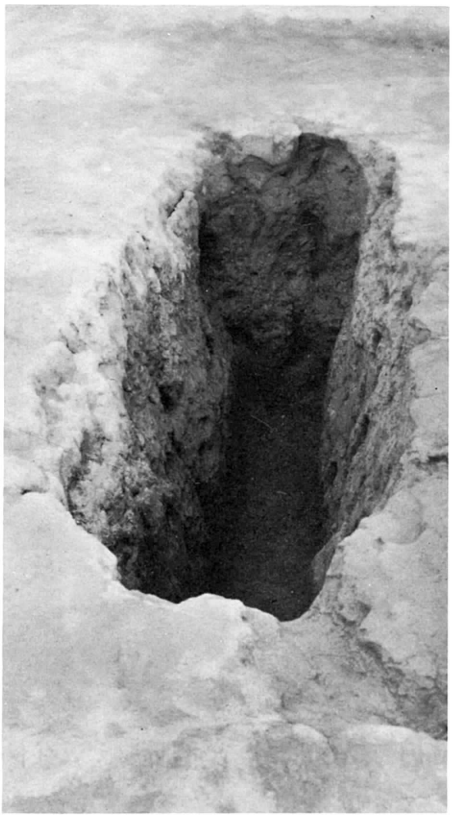
図版　2

第II地区

1



2

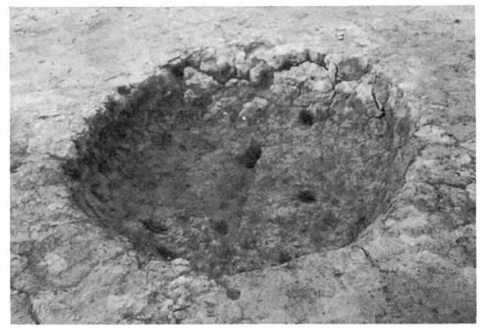


3

4

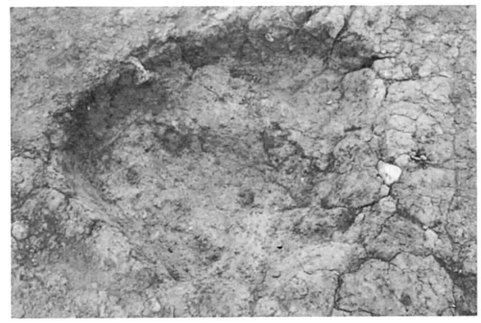
5

1．1号溝状土壙
2．2号溝状土壙
3．3号溝状土壙
4．4号溝状土壙
5．5号溝状土壙



円形土壙
1号・2号

3号・6号

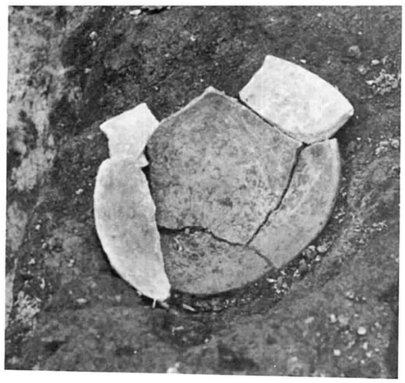


7号・8号

13号・14号

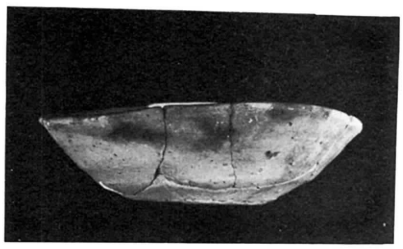
15号・17号

図版　2



灰原坏出土状況

2号窯　　1号窯



灰原出土坏

2号窯隔壁
左側　焚口方向
右側　窯本体

2号窯焚口付近
灰原 埋土状況

図版　3

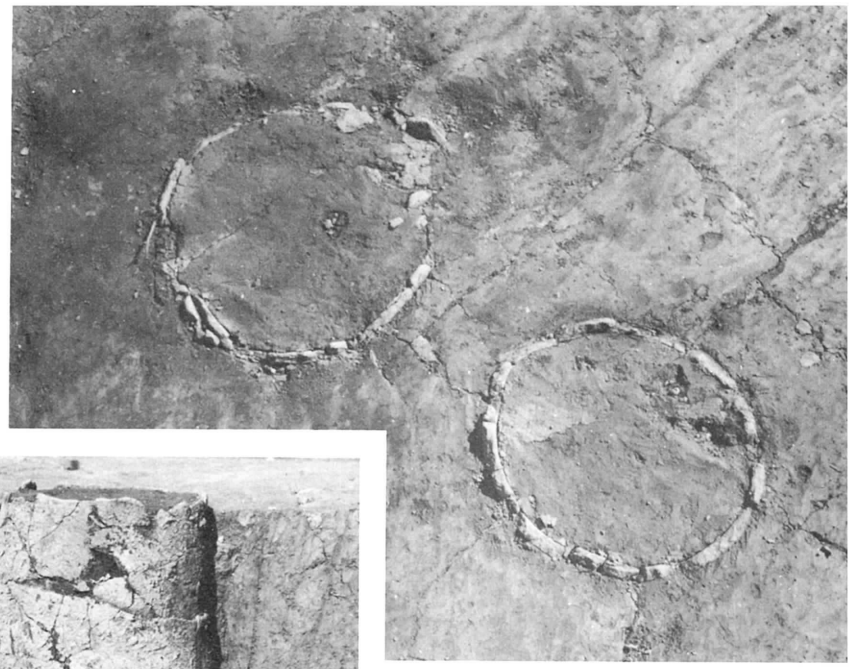
第Ⅳ地区

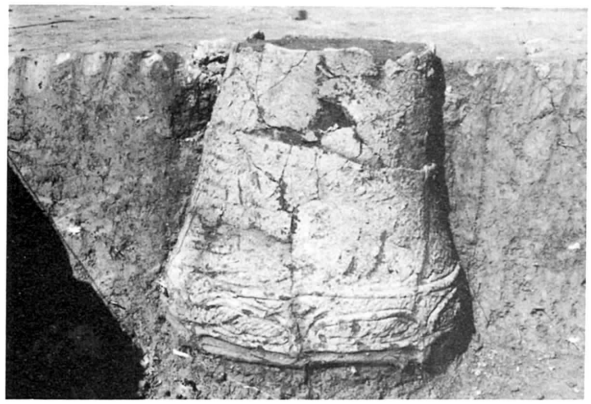
1号住居跡
南方から

1号住居跡炉断面

1号住居跡埋設土器

右
2号住居跡　北方から
炉No. 1
炉No. 2

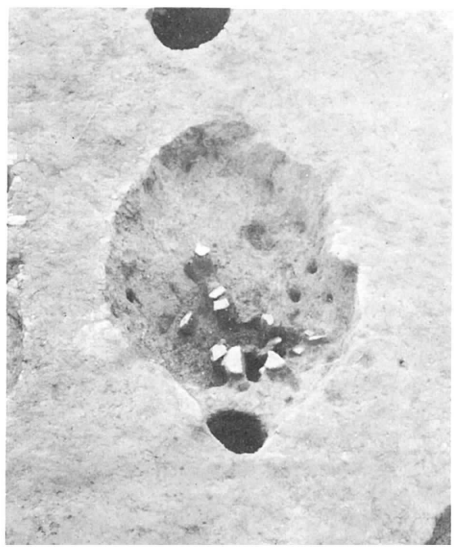


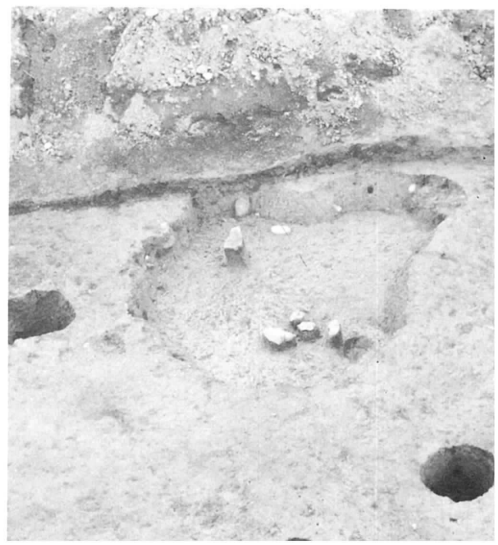


左　2号住居跡
埋設土器

左　1号土壙
右　2号土壙

左
5号土壙
右
3号土壙

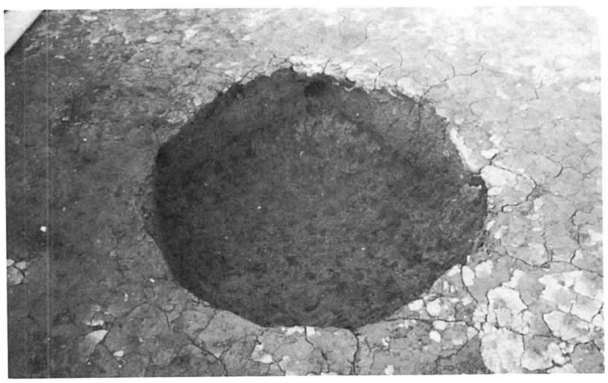




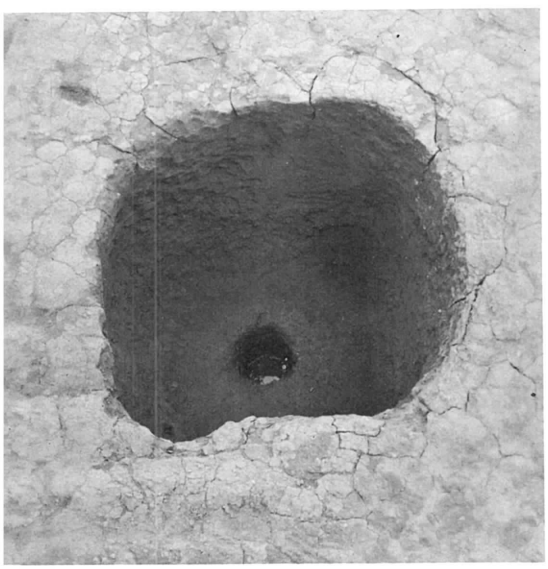
図版　2

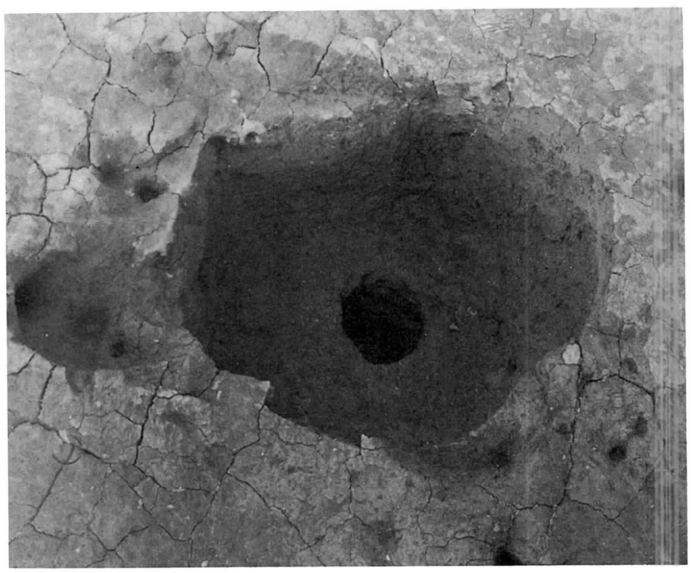
6号土壙

左
12号土壙
右
13号土壙

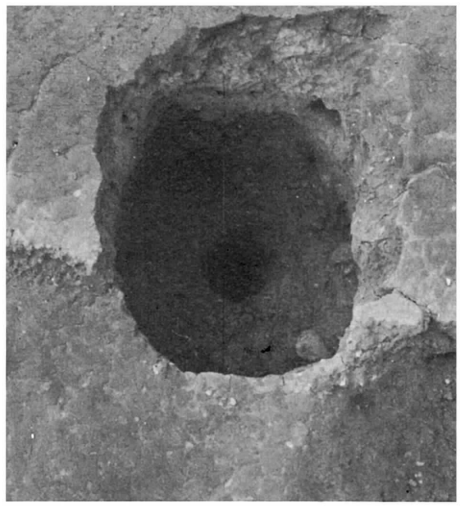


左　14号土壙
下左
15号土壙
下右
16号土壙





17号土壙

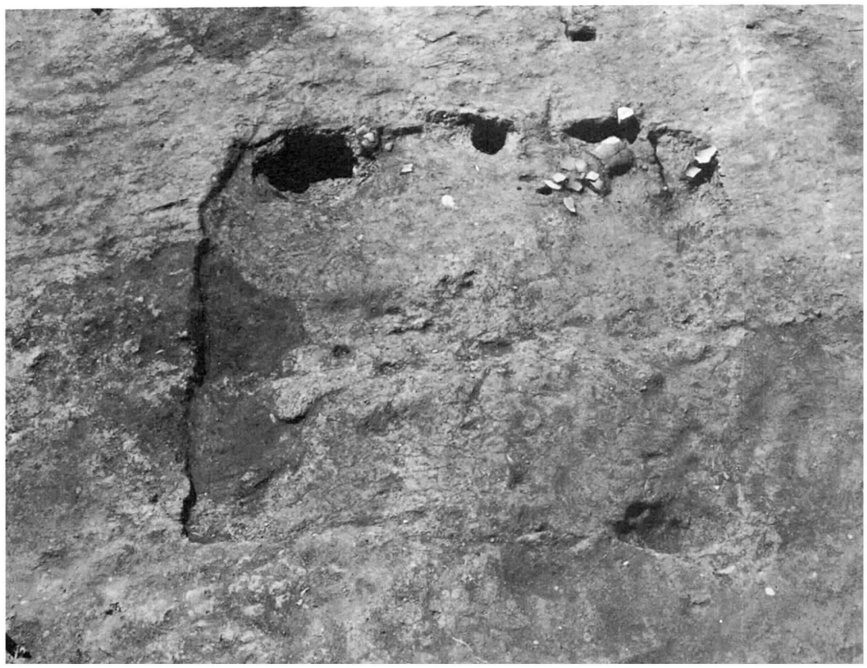


18号土壙

5号住居跡
北方から

4号住居跡
北方から

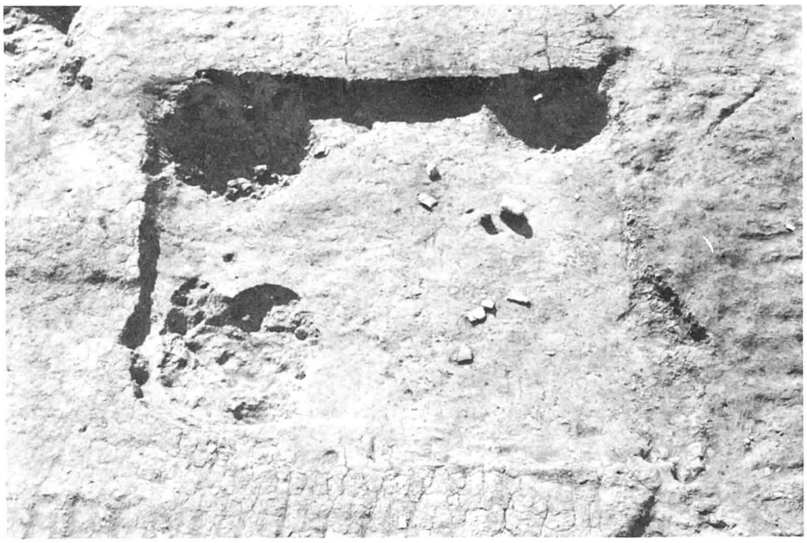
7号住居跡
北方から



図版　4

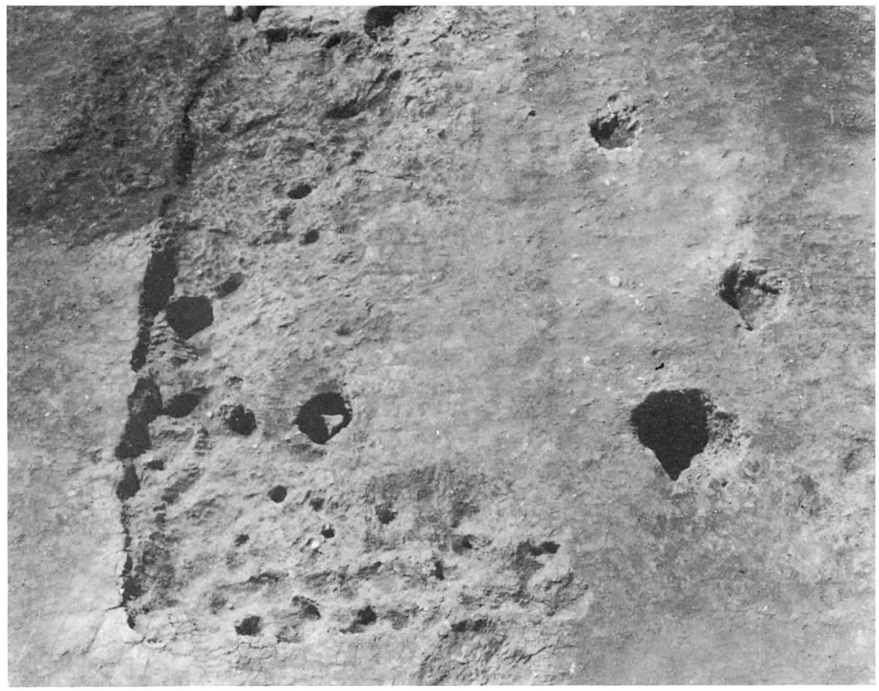
7号住居跡
かまど付近
遺物出土状況

8号住居跡
南方から

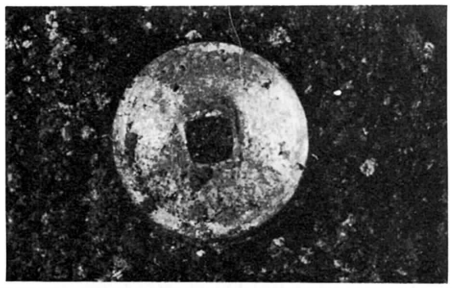


9号住居跡
東方から

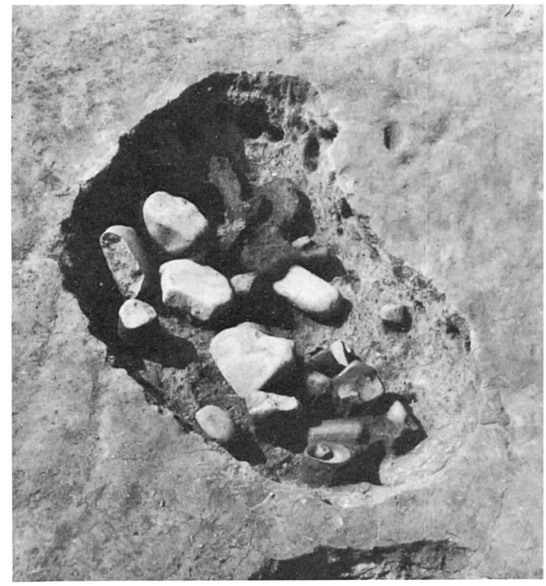
10号住居跡
北方から



下
墓壙
永楽通宝出土状況

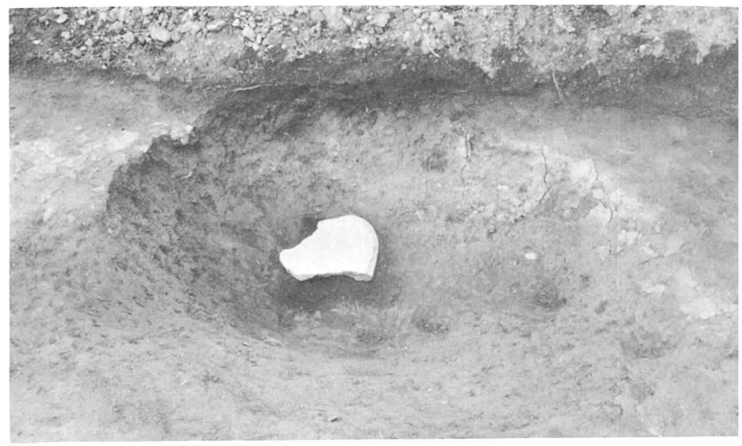


20号土壙

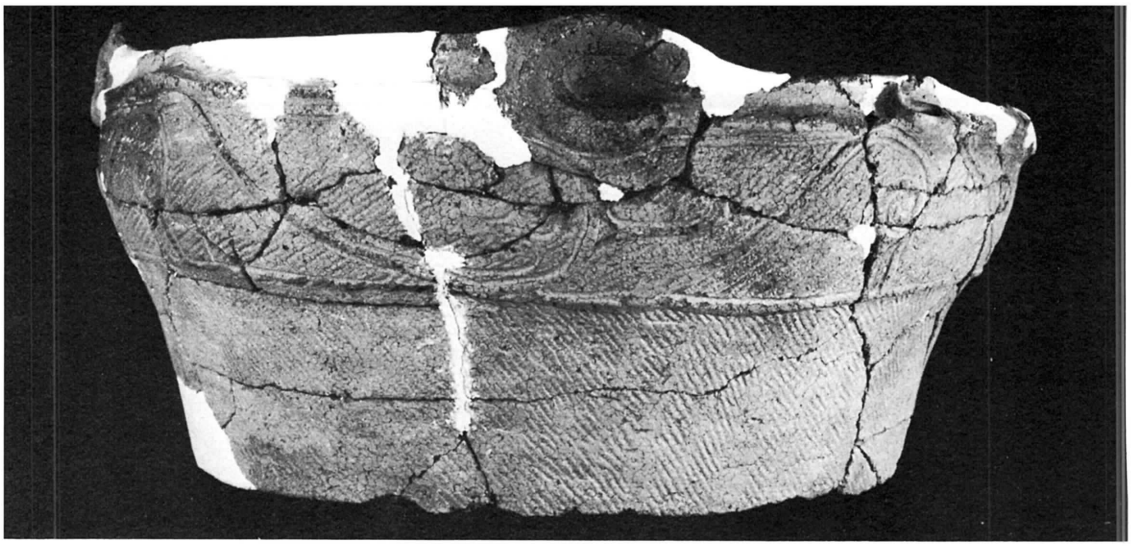


上　墓壙

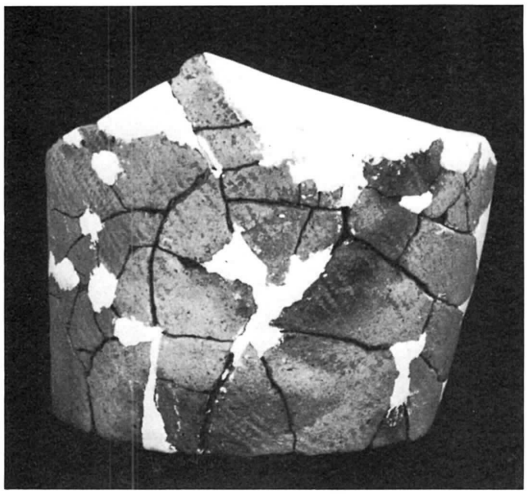
22号土壙



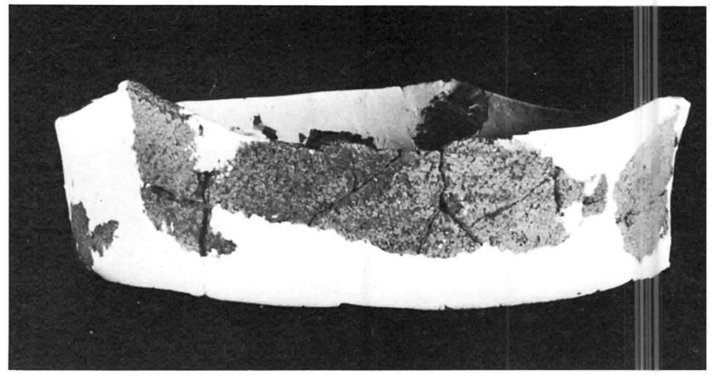
図版　6



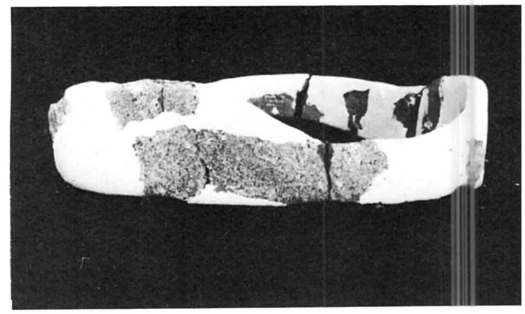
3



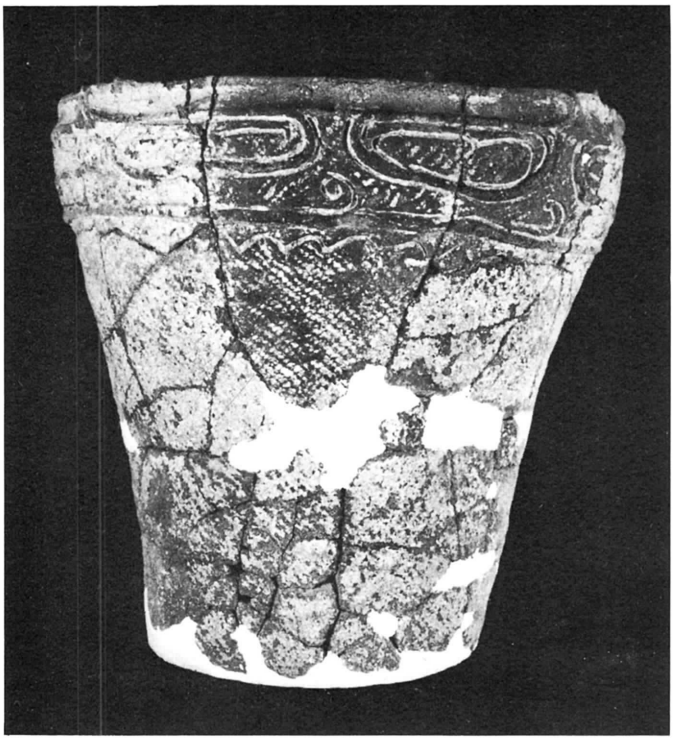
2



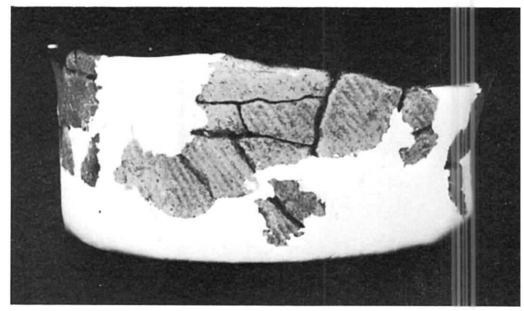
4



5



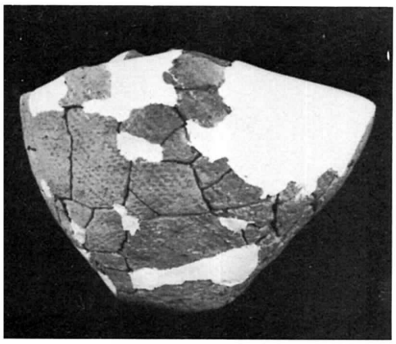
6



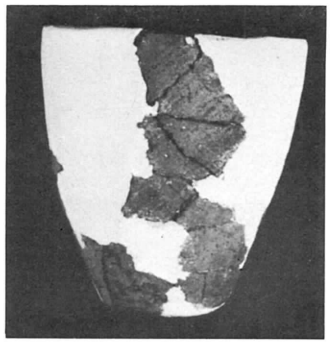
1．1号住炉埋設土器
2．1号住埋設土器
3．2号住炉埋設土器(No.1)
4．2号住炉埋設土器(No.2)
5．2号住埋設土器
6．1号埋設土器

S＝約1/4

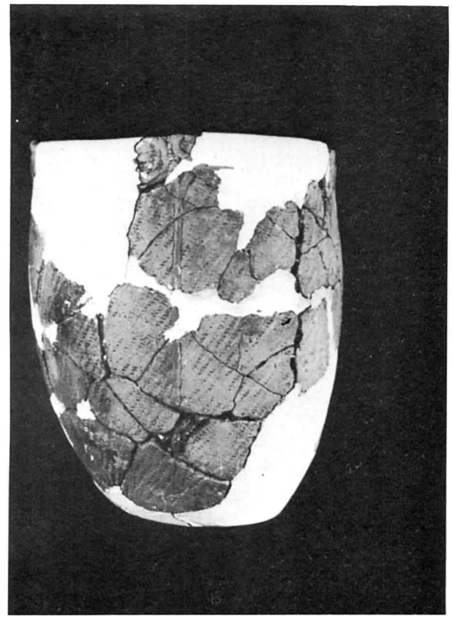
図版　7



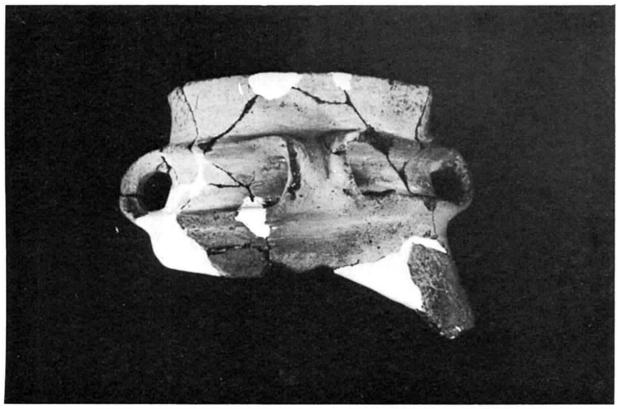
1



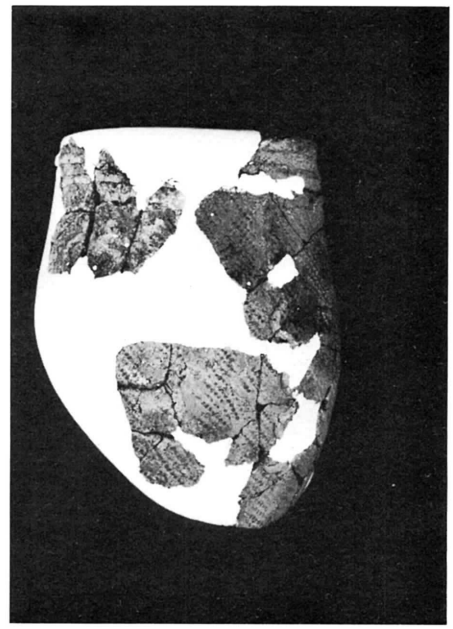
2



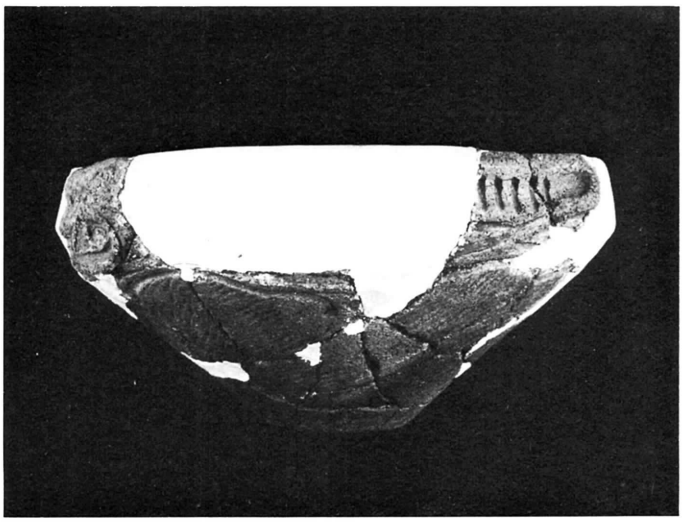
4



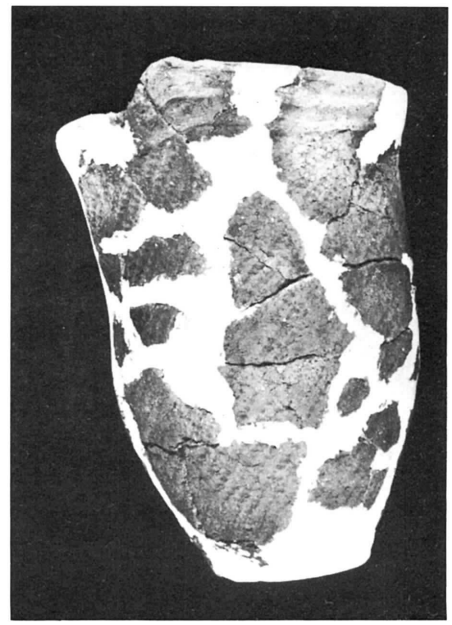
5



6

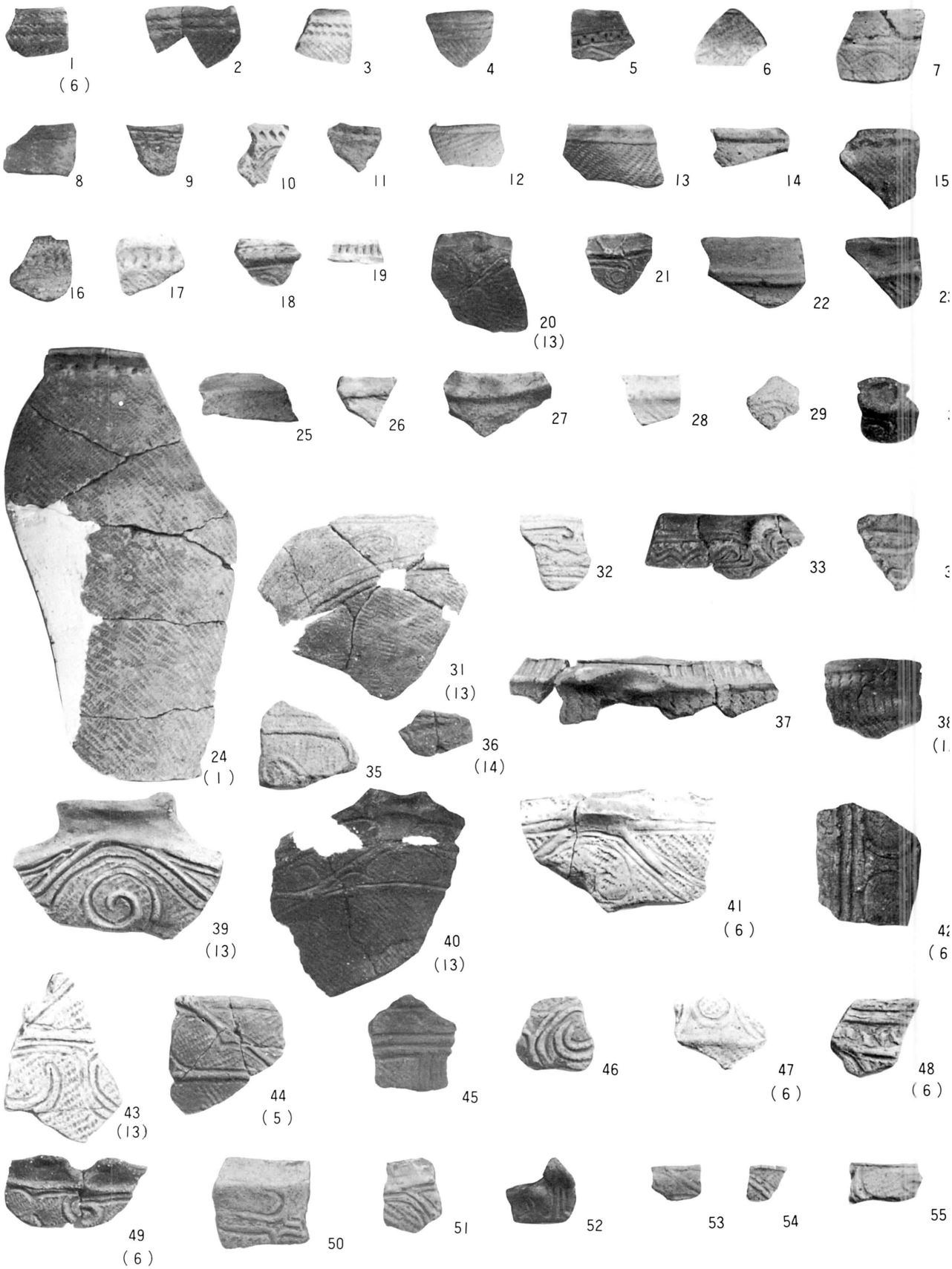


7



1. 2号埋設　S＝約 1/1
2. 4号土壙出土　S＝約 1/3
3. 1号土壙出土　S＝約 1/1
4. 2号土壙出土　S＝約 1/1
5. 4号土壙出土　S＝約 1/1
6. 6号土壙出土　S＝約 1/3
7. 13号土壙出土　S＝約 1/3

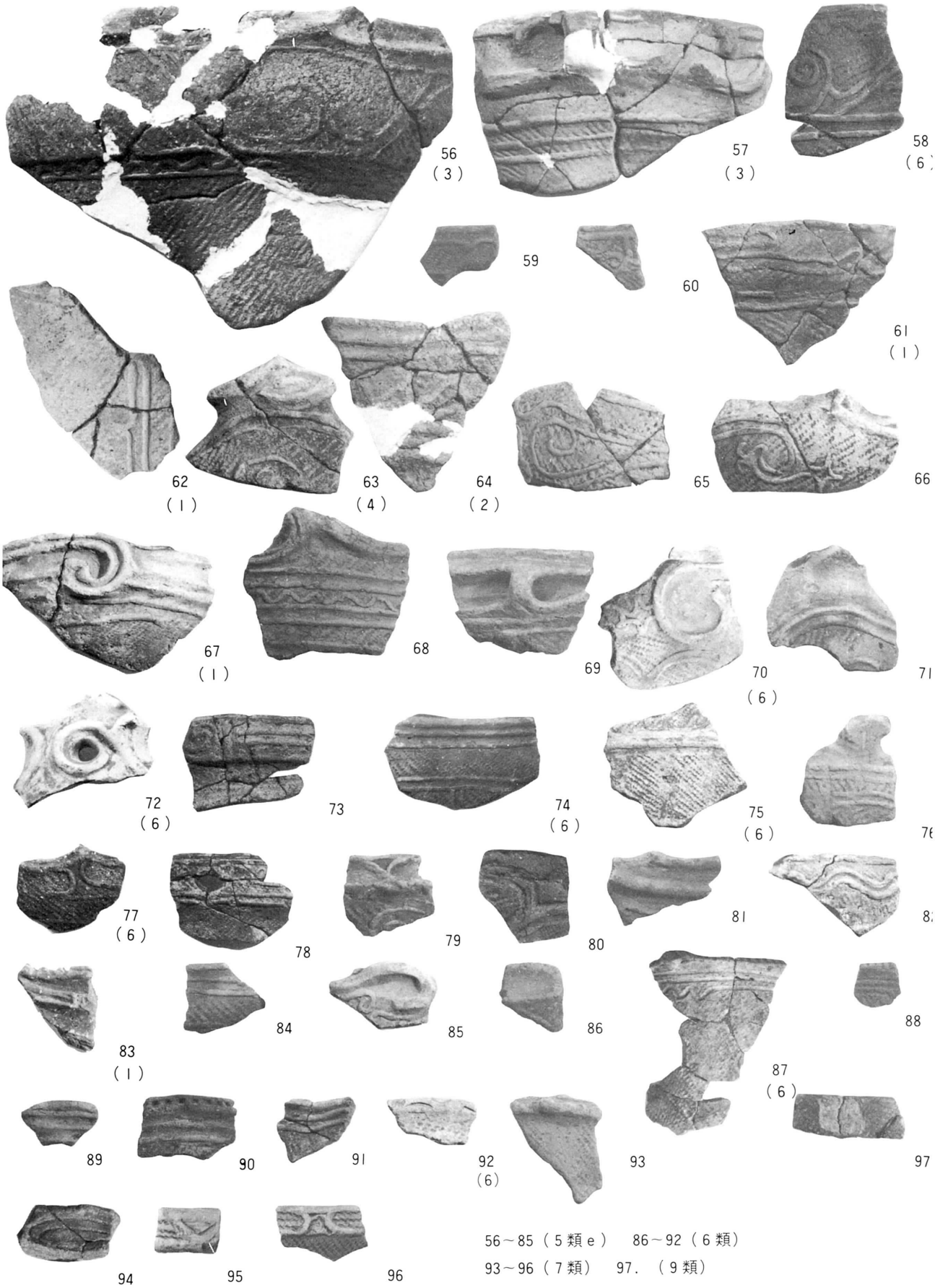
図版　8



1～3（1類）　4～11（2類）　12～15（3類）　16・17（4類a）
18・19（4類b）　20～28（4類c）　29・30（5類a）　31～34（5類b）
35～38（5類C）　39～55（5類d）

※（ ）内は土壙ナンバーを示す

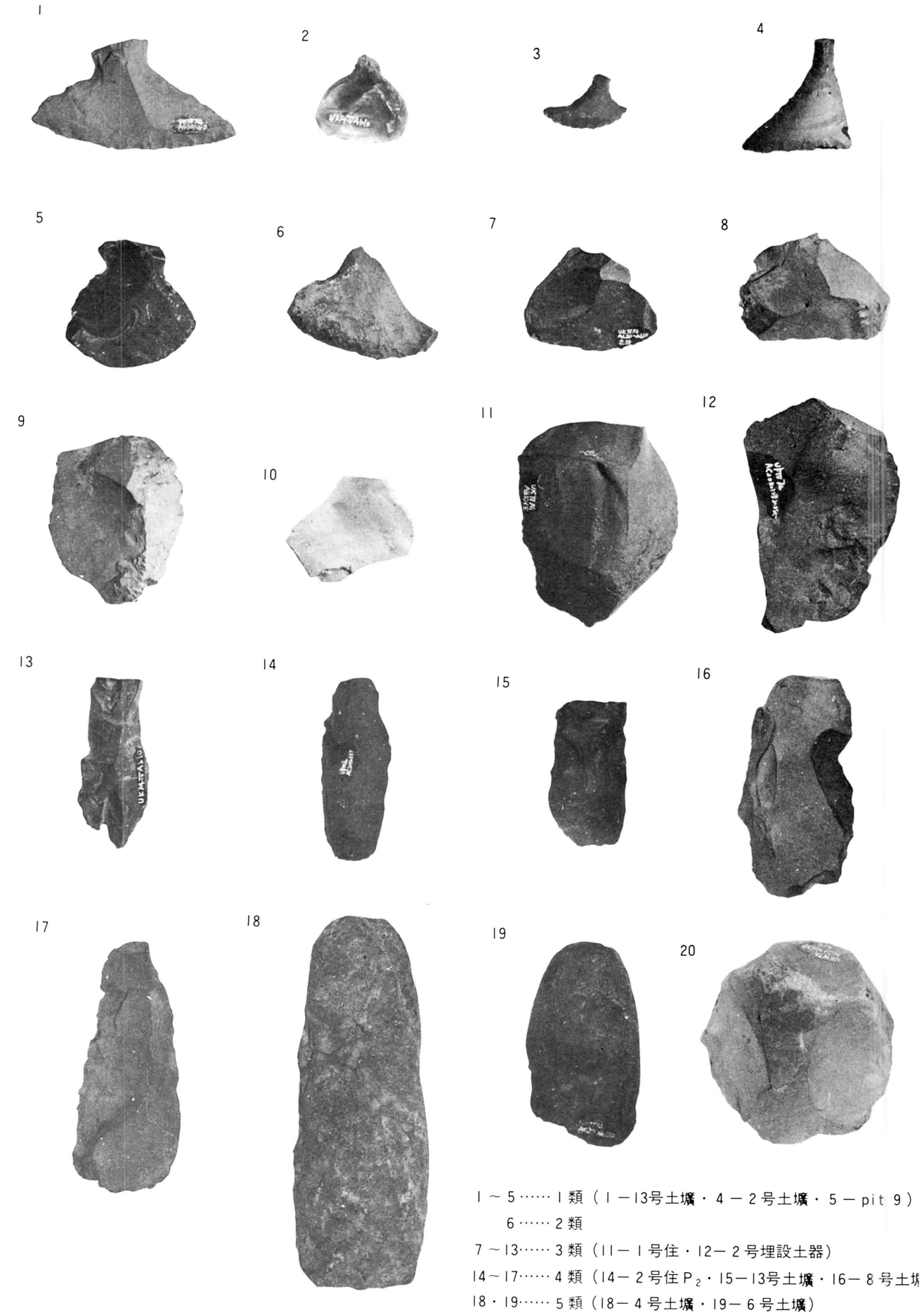
図版　9　　S＝約½



56～85（5類e）　86～92（6類）
93～96（7類）　97.（9類）

S＝約1/4

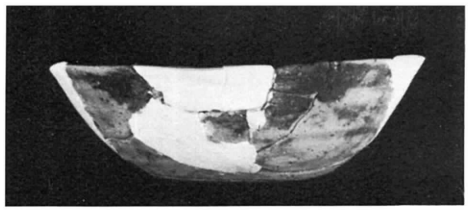
図版　10　　※（ ）内は土壙ナンバーを示す

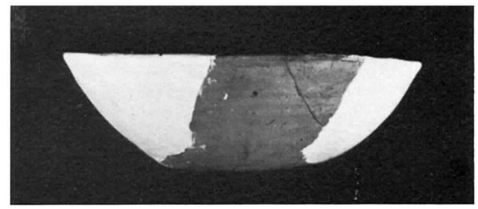


1 ～ 5……1類（1－13号土壙・4－2号土壙・5－pit 9）
6……2類
7 ～ 13……3類（11－1号住・12－2号埋設土器）
14～17……4類（14－2号住 P_2・15－13号土壙・16－8号土壙
18・19……5類（18－4号土壙・19－6号土壙）
20……6類（6号土壙）

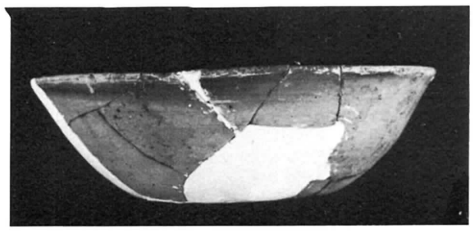
S＝約½

図版　11

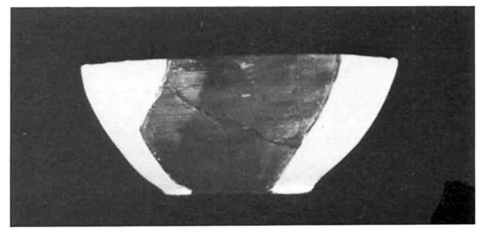




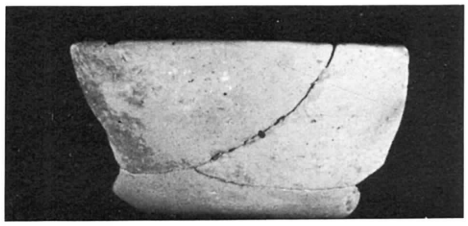
2

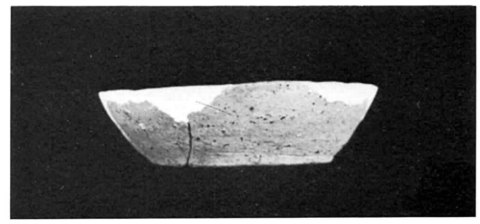


6

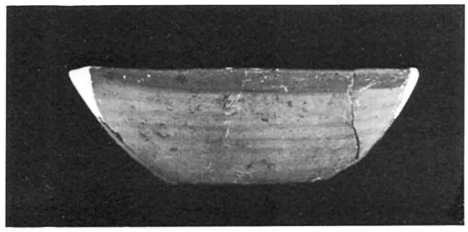


3

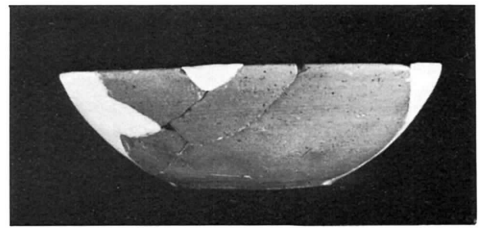




4

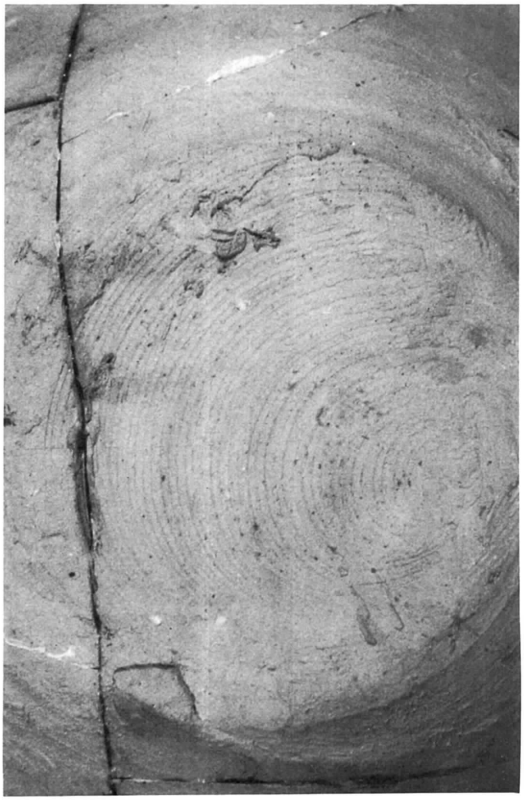


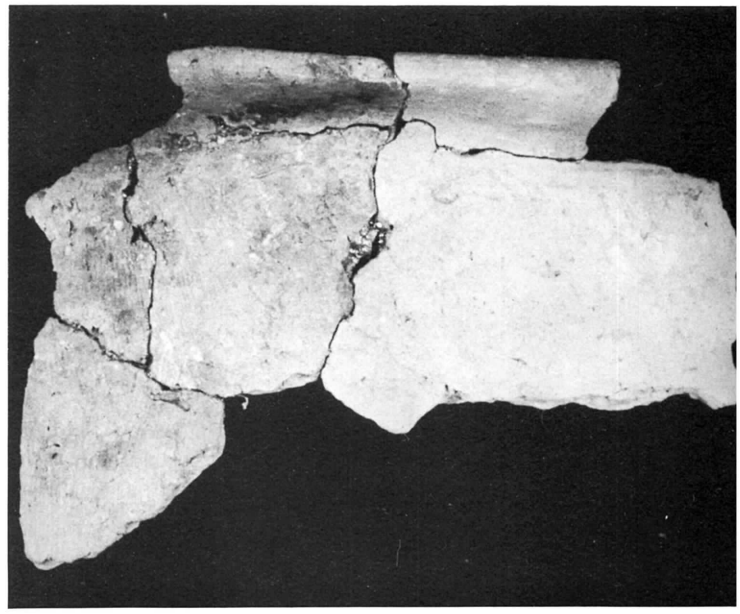
8



9

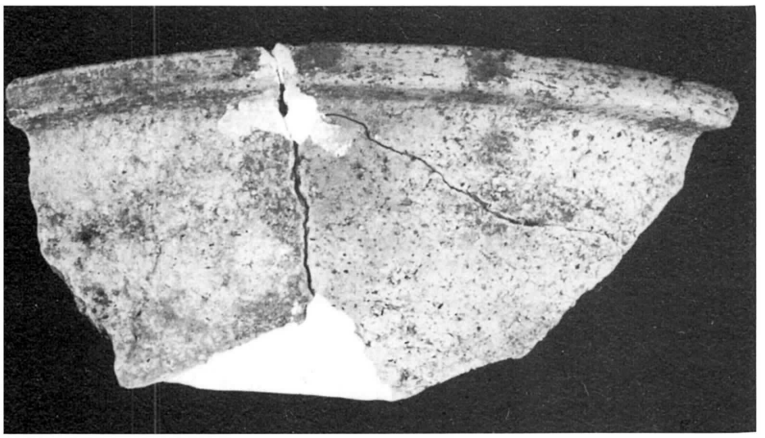
10

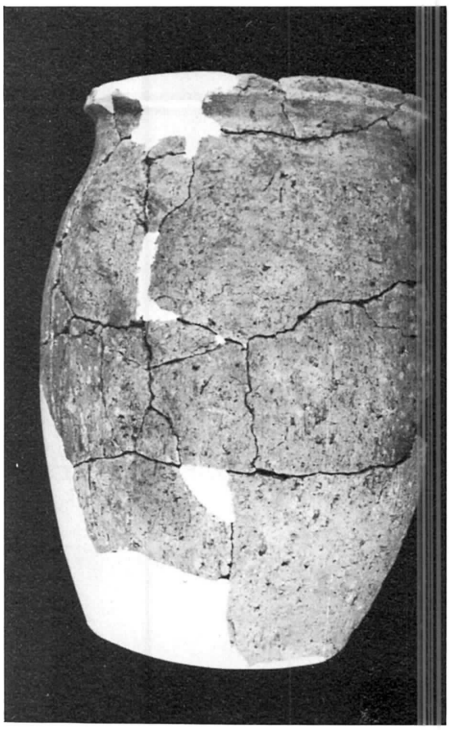




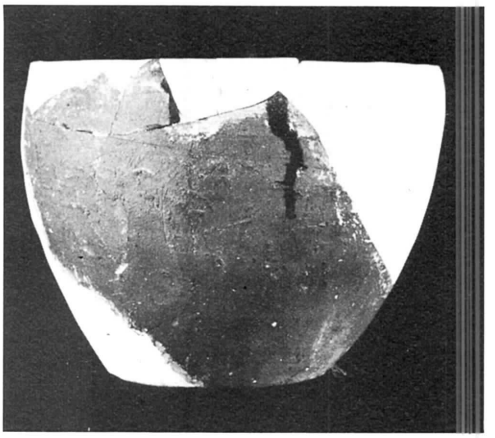
1．3号住　　4．5号住－1　　7．5号住－4
2．4号住－1　　5．5号住－2　　8．5号住－5
3．4号住－2　　6．5号住－3　　9．5号住－1の底の墨書
10．6号住　任意縮少
1～8　S＝約 1/3

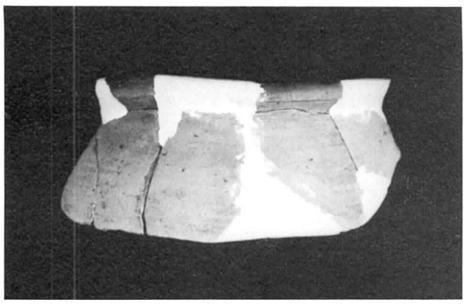
図版　12

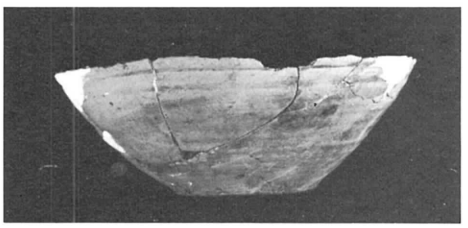

1

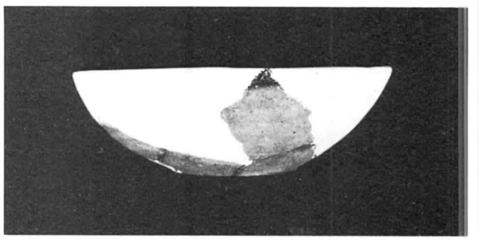

2

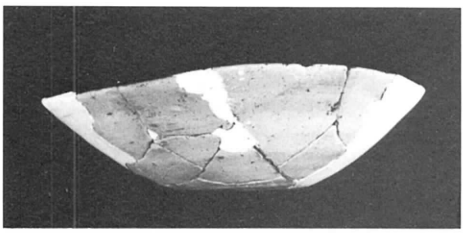
3

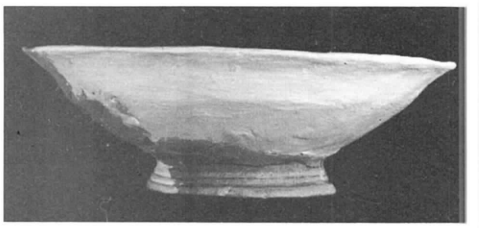

5


4


6

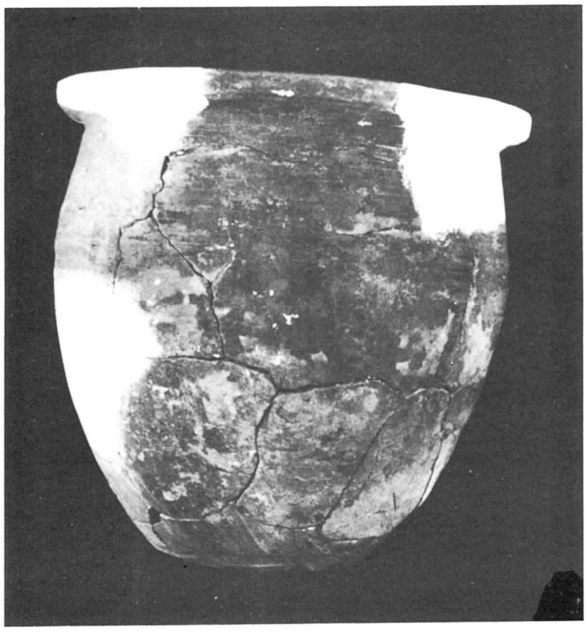

8


7

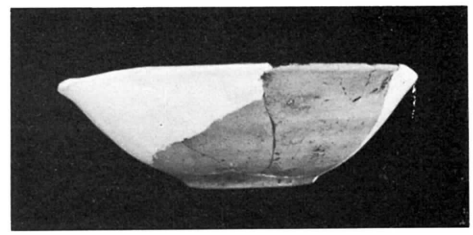

9

1.　7号住－1任意縮少　4.　7号住－4 S＝約1/4　7.　9号住－2 S＝約1/3
2.　7号住－2 S＝約1/4　5.　7号住－5 S＝約1/3　8.　9号住－3 S＝約1/3
3.　7号住－3任意縮少　6.　9号住－1 S＝約1/3　9.　9号住－4 S＝約1/3

図版　13

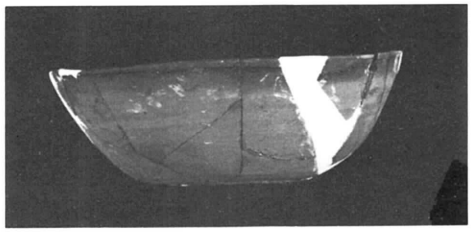


1

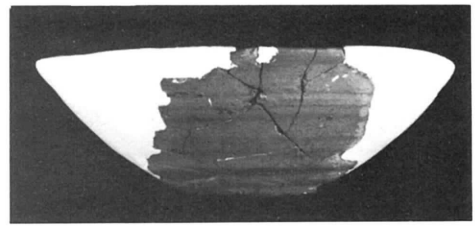


3

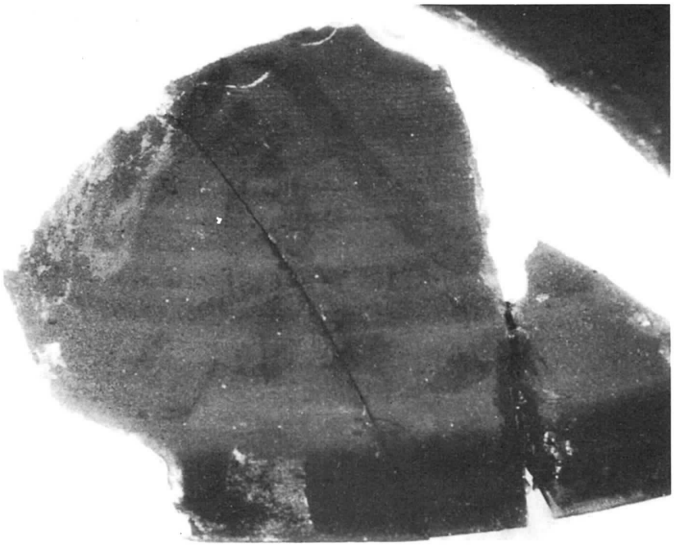
4



2



5

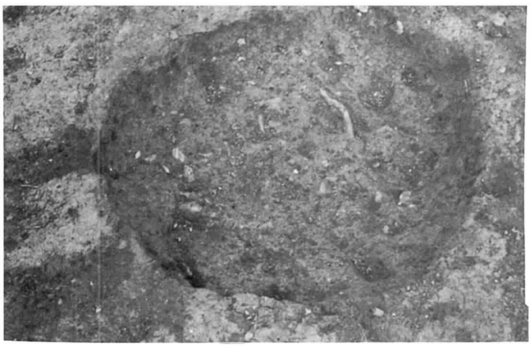


6

1. 9号住－6 S＝約¼
2. 表採坏 S＝約⅓
3. 20号土壙－1 S＝約⅓
4. 20号土壙－2 S＝約⅓
5. 20号土壙－3 S＝約⅓
6. 墨書（2の坏）

図版 14

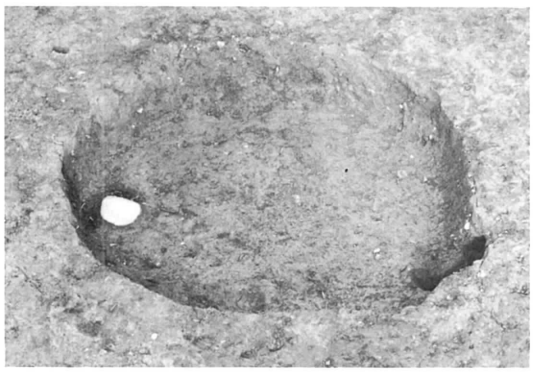
第Ⅴ地区



2

3

4



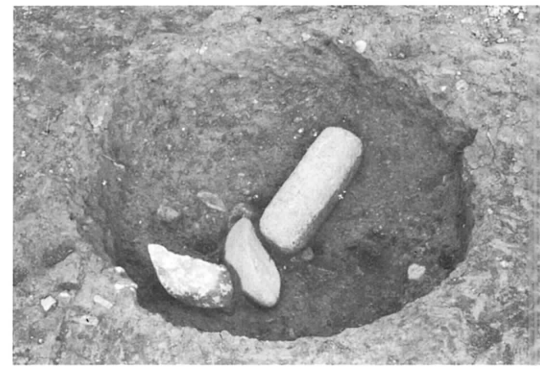
5

6

7

8

9



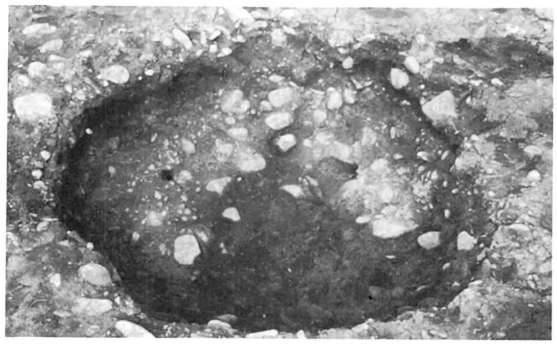
土　壙

1．1号	4．7号	7．12号
2．2号	5．10号	8．13号
3．4号	6．11号	9．14号

図版　1

1

2



3

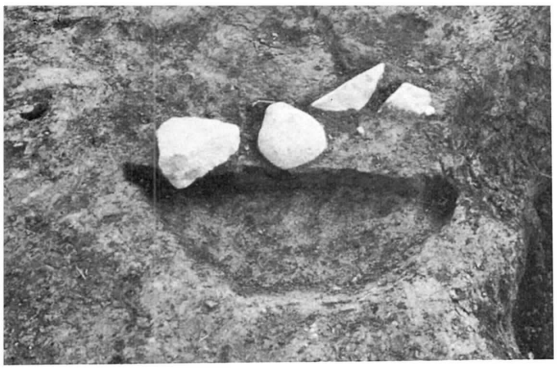
4

5

土　壙

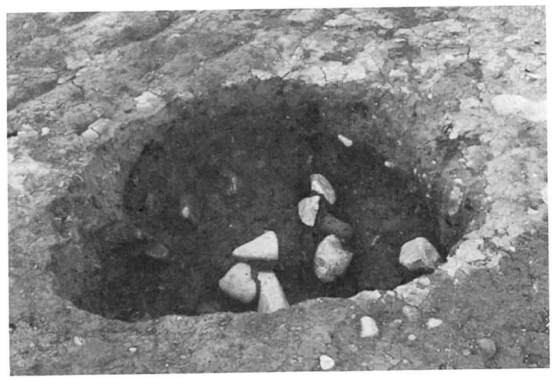
1．17号　　5．26号
2．21号　　6．27号
3．22号　　7．28号
4．25号　　8．33号
　　9．35号

図版　2



2

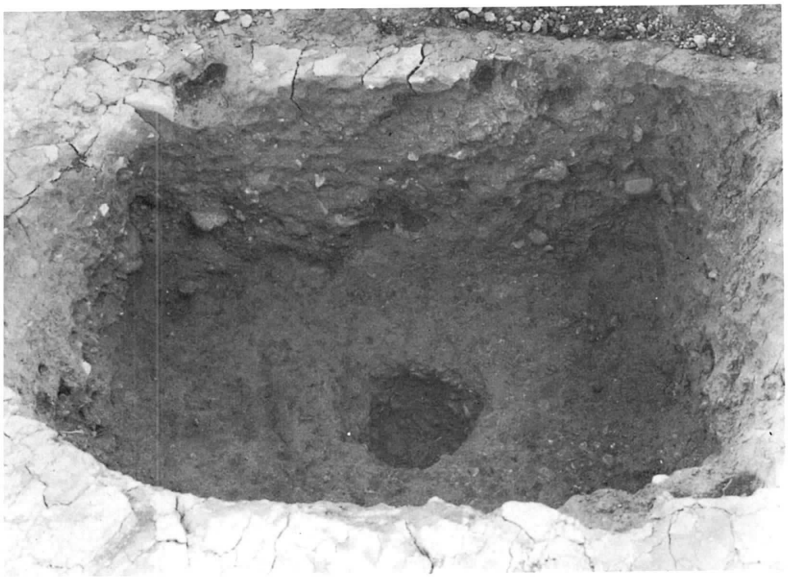
5



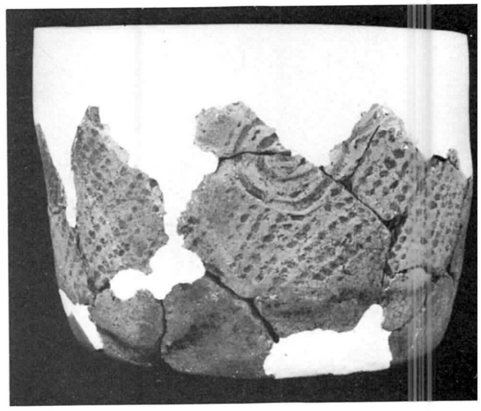
3

6

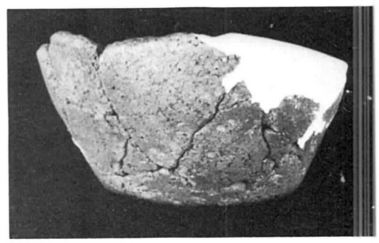
7



8



9



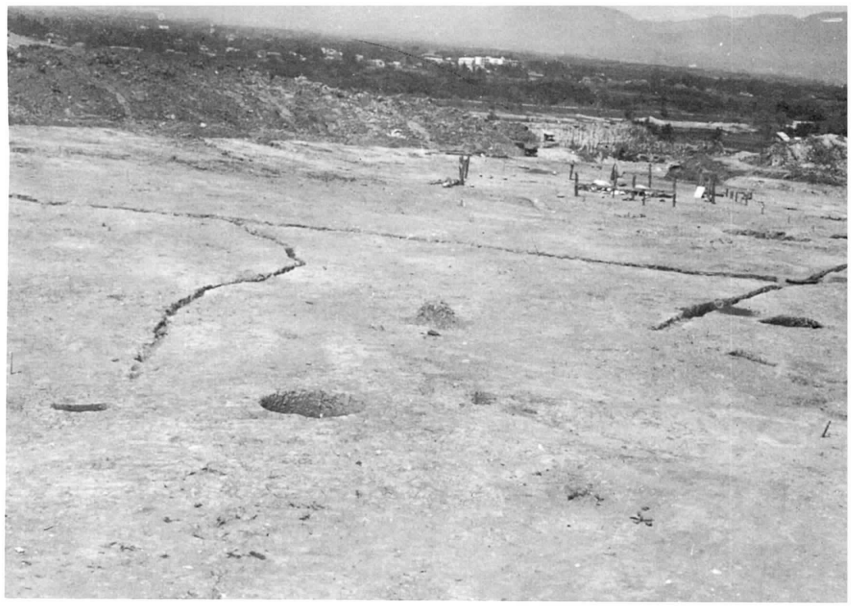
土壙

1．37号　4．49号　7．54号
2．41号　5．51号　8．11号土壙 土器 S＝約1/3
3．48号　6．52号　9．2号土壙 土器 S＝約1/3

図版　3

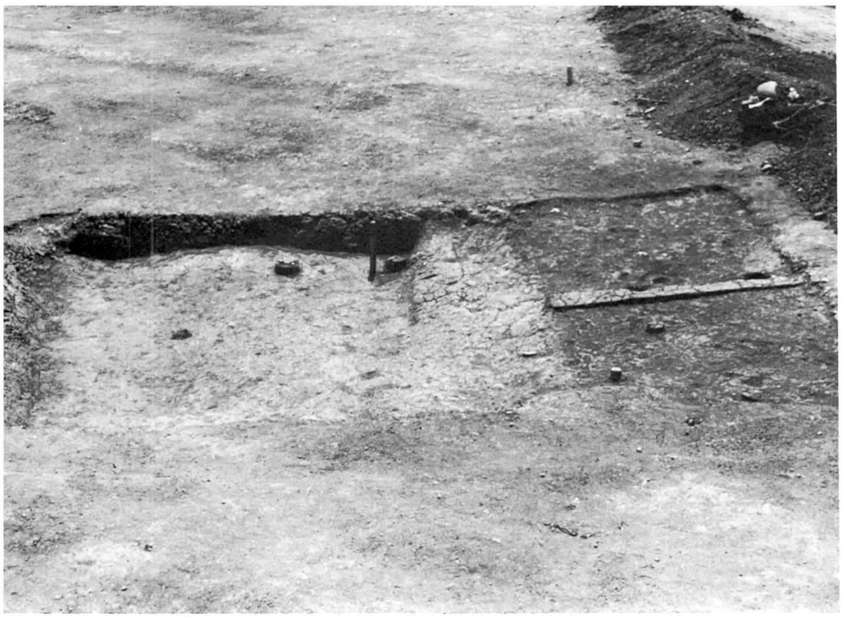
第Ⅲ・Ⅵ地区

1．調査区全景
（東より）



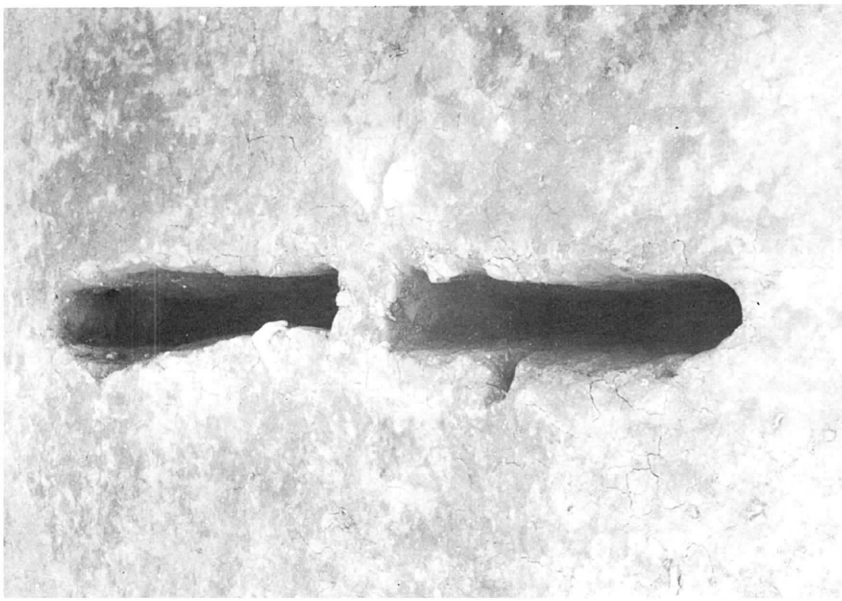
2．竪穴住居跡
（西より）

3．土器出土状況



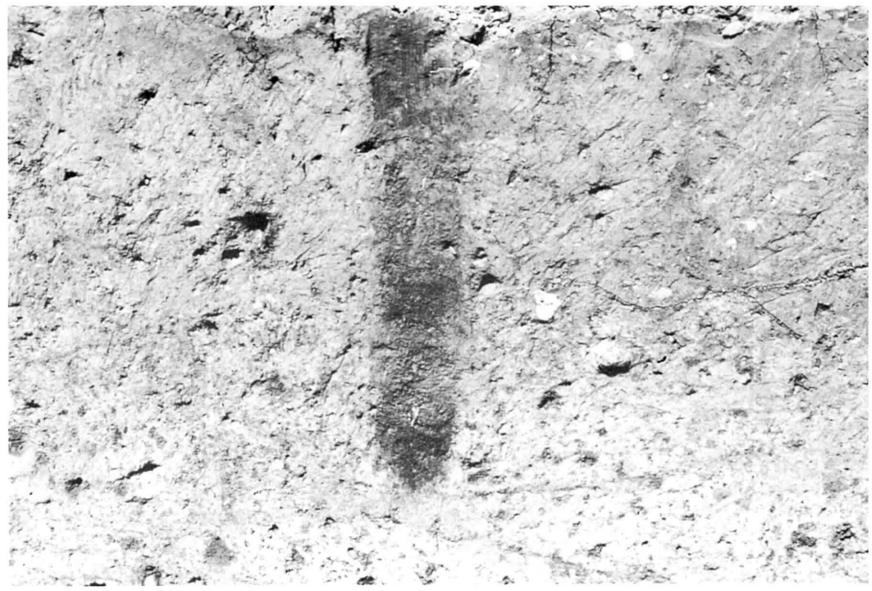
1．竪穴状遺構
（東より）

2．焼土遺構

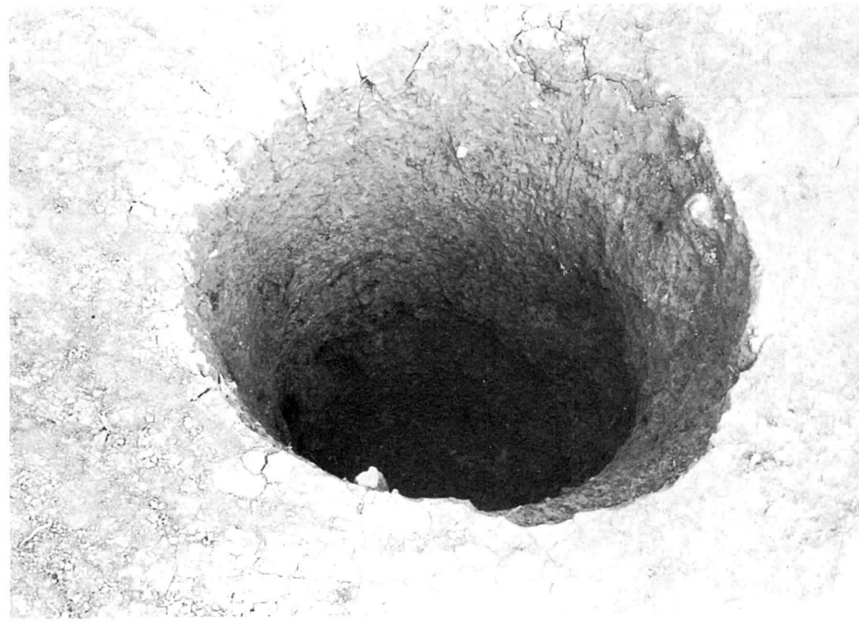


3．第1号溝状土壙

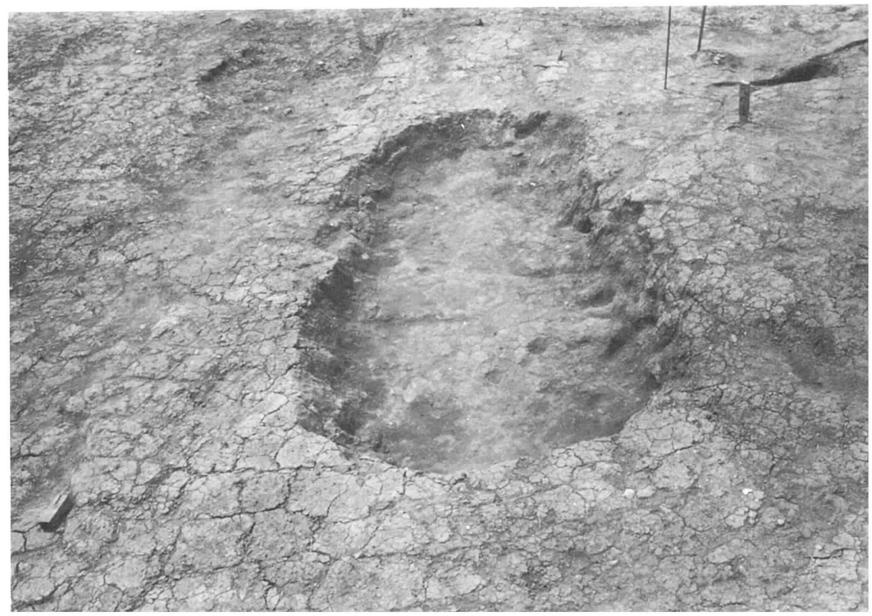
1．第1号溝状土壙断面

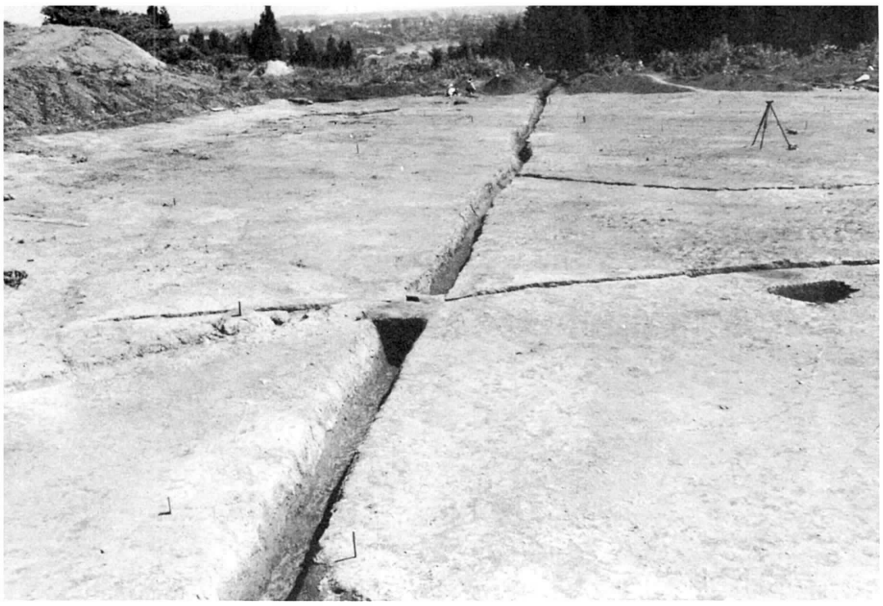


2．第3土壙（Fc 49）



3．第4土壙（Fa 49）





1．1号溝全景（南より）

2．1号溝断面

3

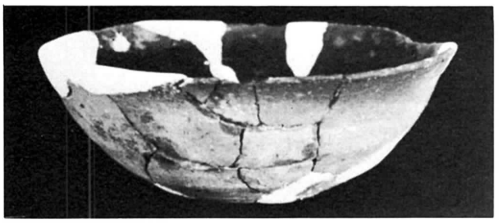
4

3．2号溝石敷状の状況
4．2号溝全景（南より）

1．堀状遺構全景
（南より）

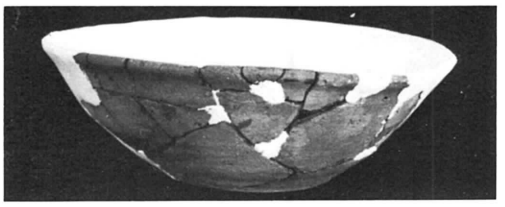
2．堀状遺構断面

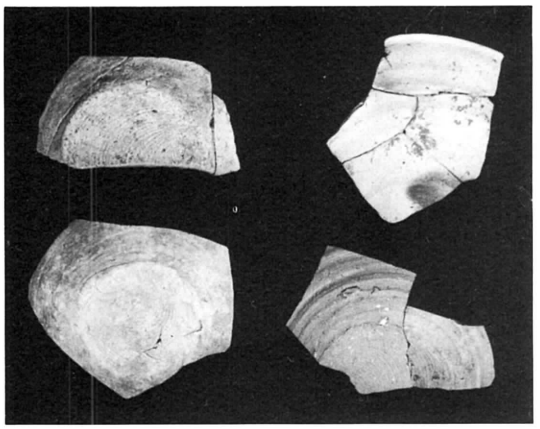
3．堀状遺構断面

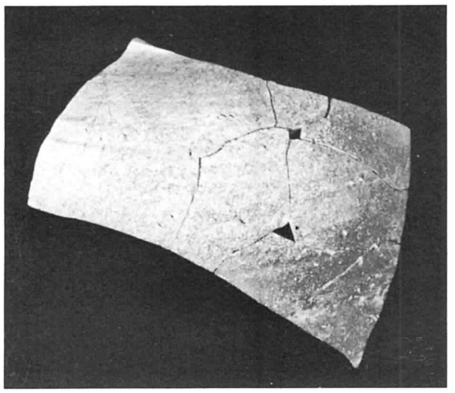

1

2

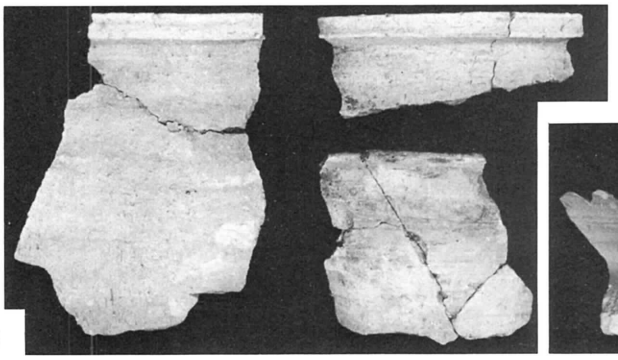
3

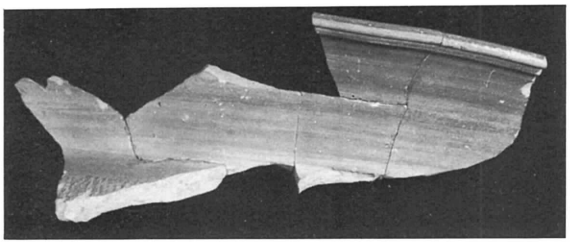

8

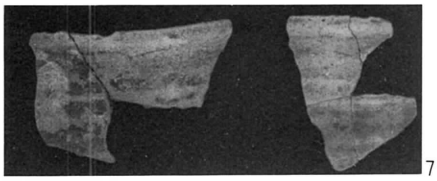

4

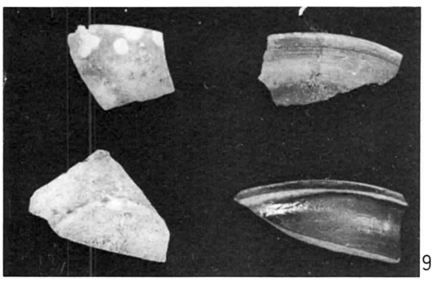

5

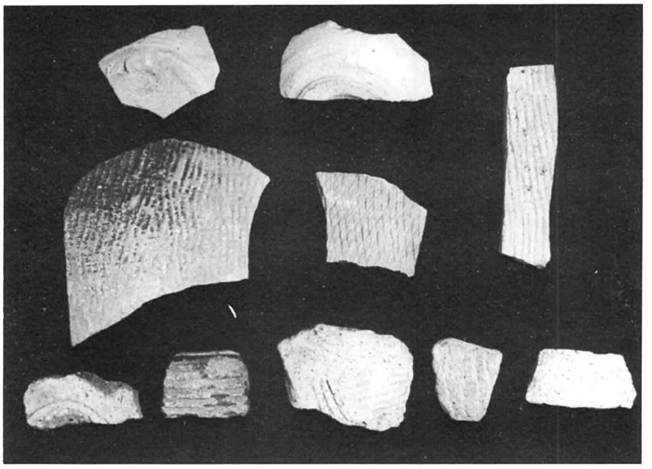
1～7竪穴住居跡（床面 埋土）
8．焼土遺構（床面）
9．竪穴状遺構（埋土）
10～111号溝（床面、埋土）


6

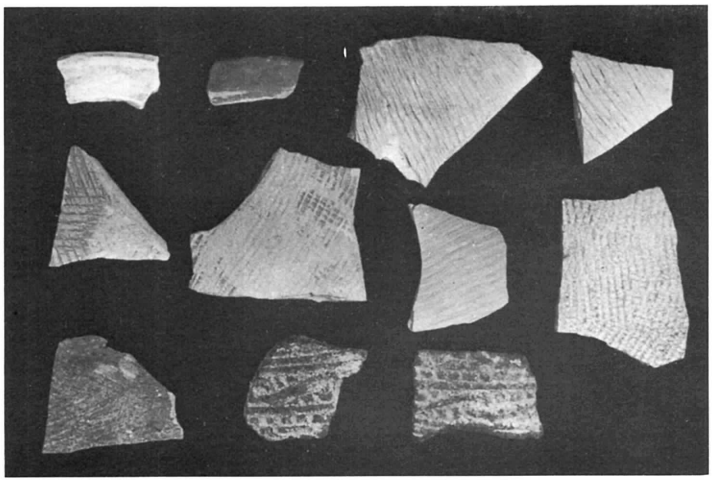

10


7


9

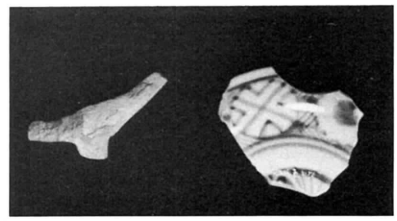

11

図版　6　　出土遺物1

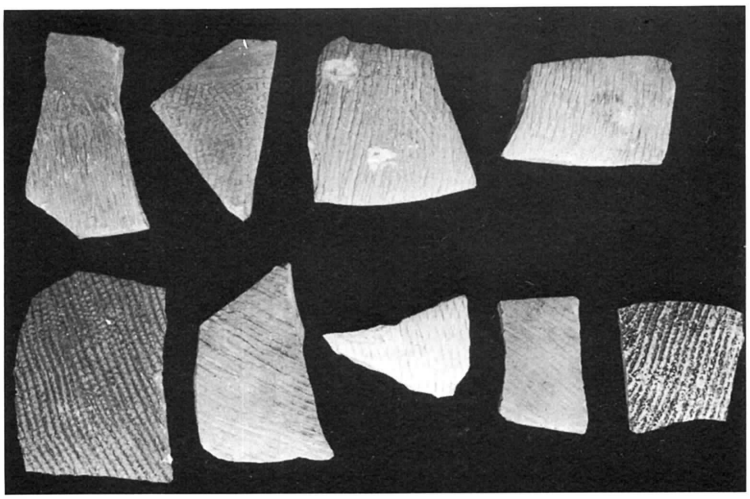


1

2



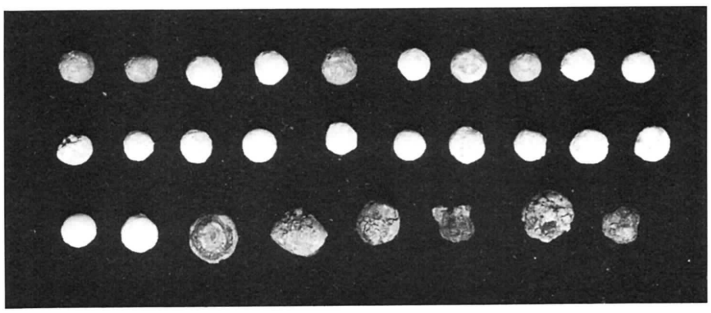
3



4

6

7

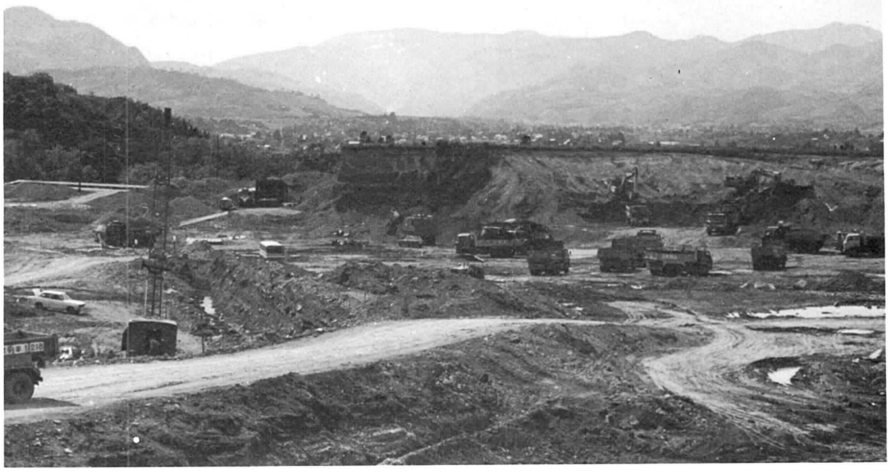


5

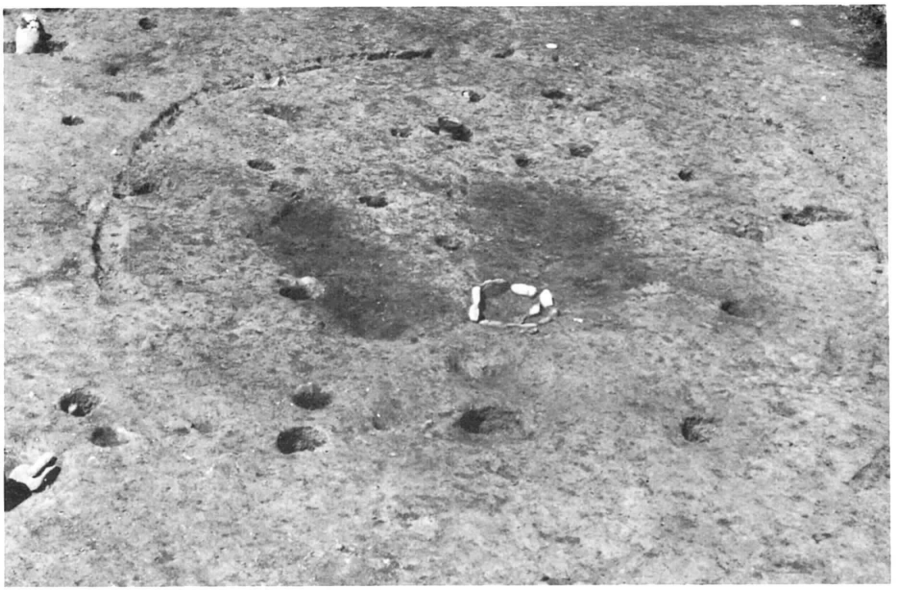
8

1．2号溝出土（床面 埋土）　2～4表土出土遺物
5．鉛玉 鉄玉　6．鉄製品　7．古銭（1号溝埋土）
8．石器（表土出土）

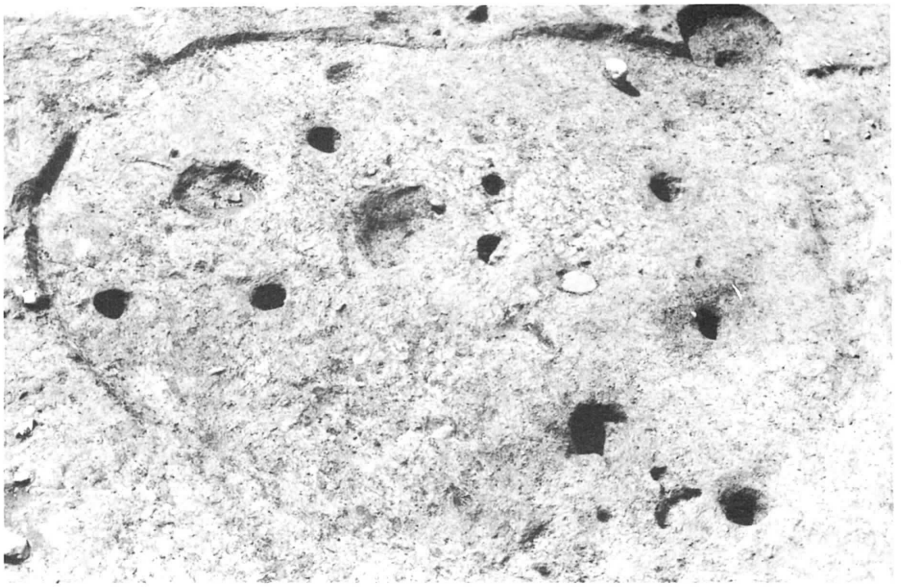
図版　7　　出土遺物2



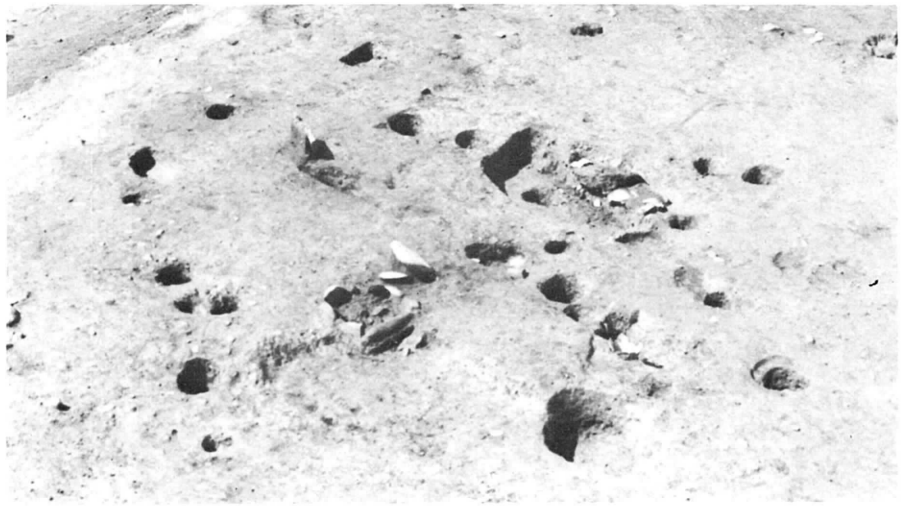
第７地区遠景
（東から望む）



第Ⅰ．２竪穴住居跡
（Ａｈ74－Ⅰ・Ⅱ住居跡）



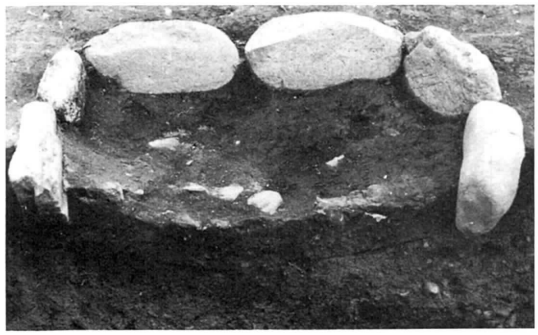
第３竪穴住居跡
（Ｂａ80住居跡）



1

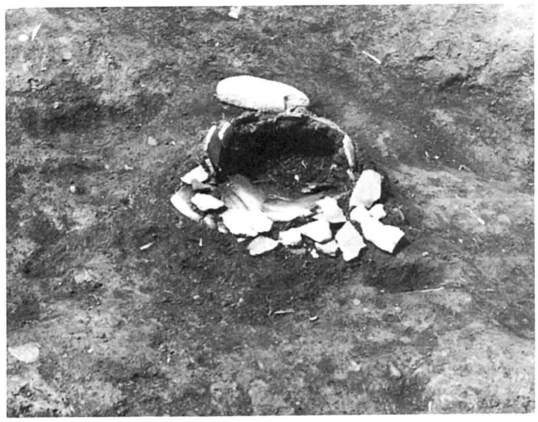
2

4



3

5

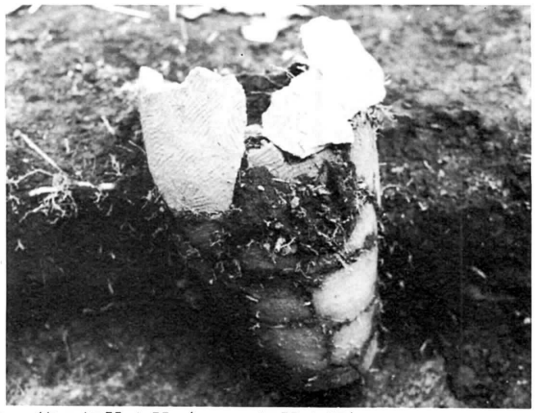


6

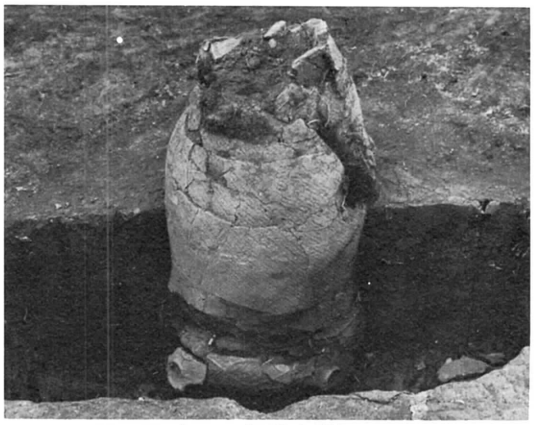
1．Ba 77炉跡周辺
2．Ah 74竪穴住居跡炉跡
3．Ah 74竪穴住居跡炉跡断面
4．Ba 77炉跡
5．Ba 77炉跡断面
6．Ag 80焼土遺構

図版　2

1．Ah 74竪穴住居跡埋設土器（Ａｉ 74埋設土器）



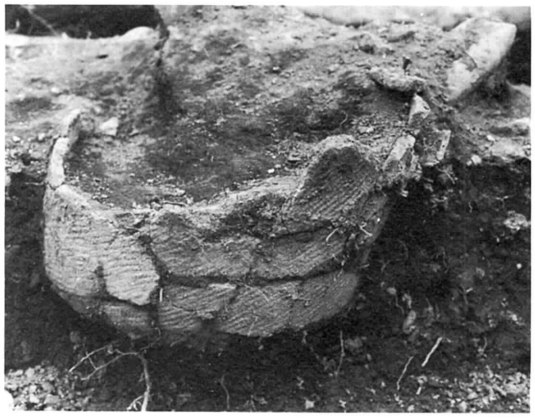
2．第１埋設土器（Ａｅ 77埋設土器）



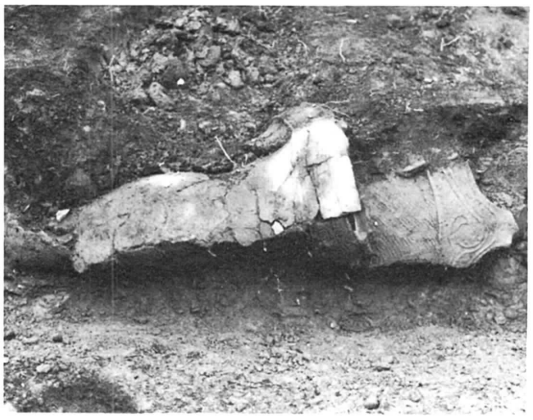
3．第２埋設土器（Ｂａ74埋設土器）

4．第３埋設土器（Ｂａ 77埋設土器）

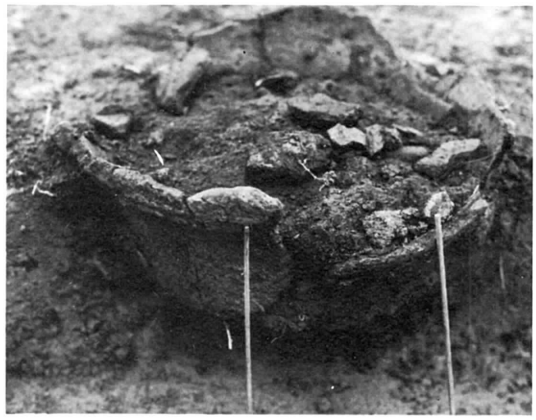
5．第４埋設土器（Ｂａ80埋設土器）



6．第５埋設土器（Ｂａ83埋設土器）



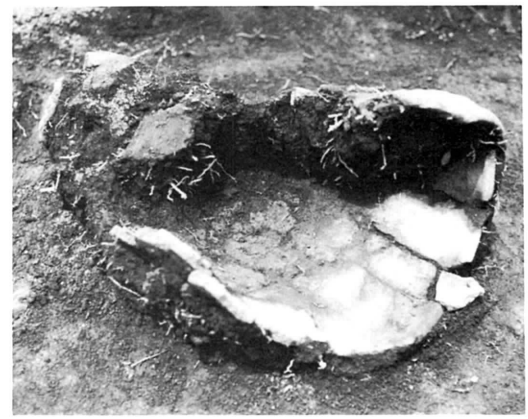
7．第６埋設土器（Ｂｂ74埋設土器）

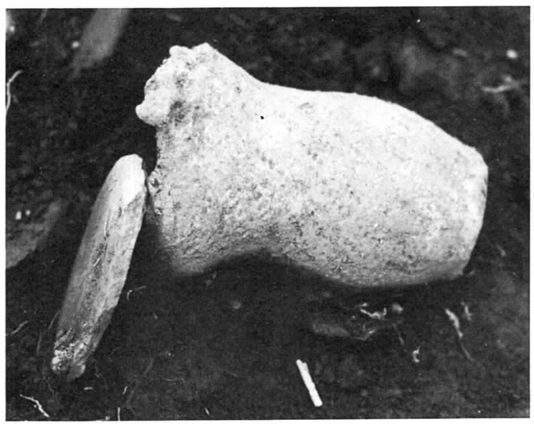


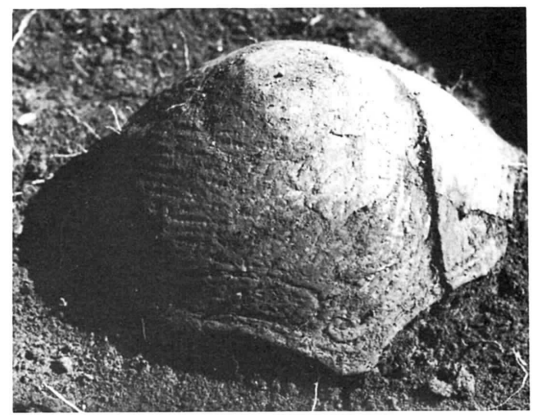
8．第７埋設土器（Ｂｃ77埋設土器）

図版 3

埋設土器

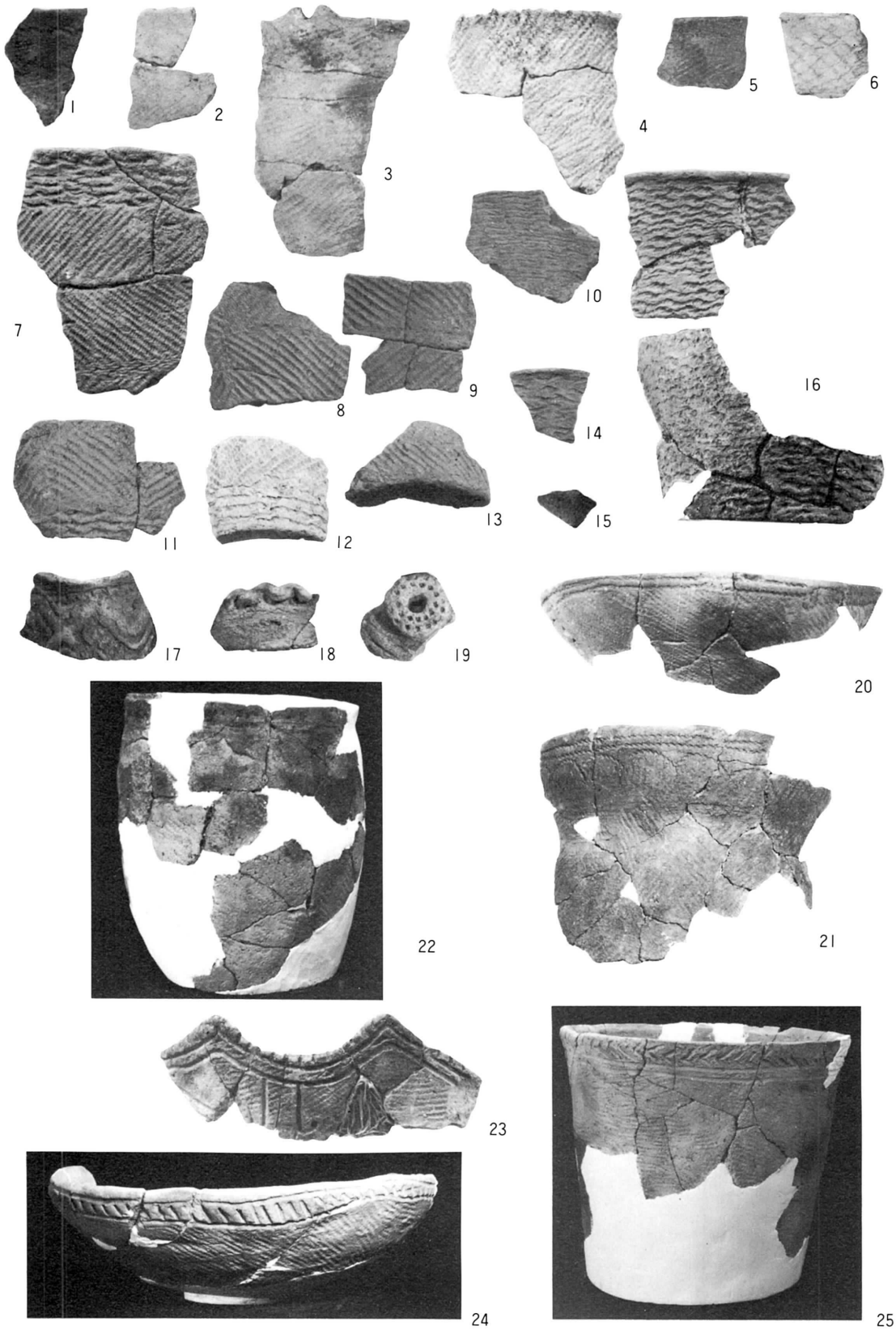






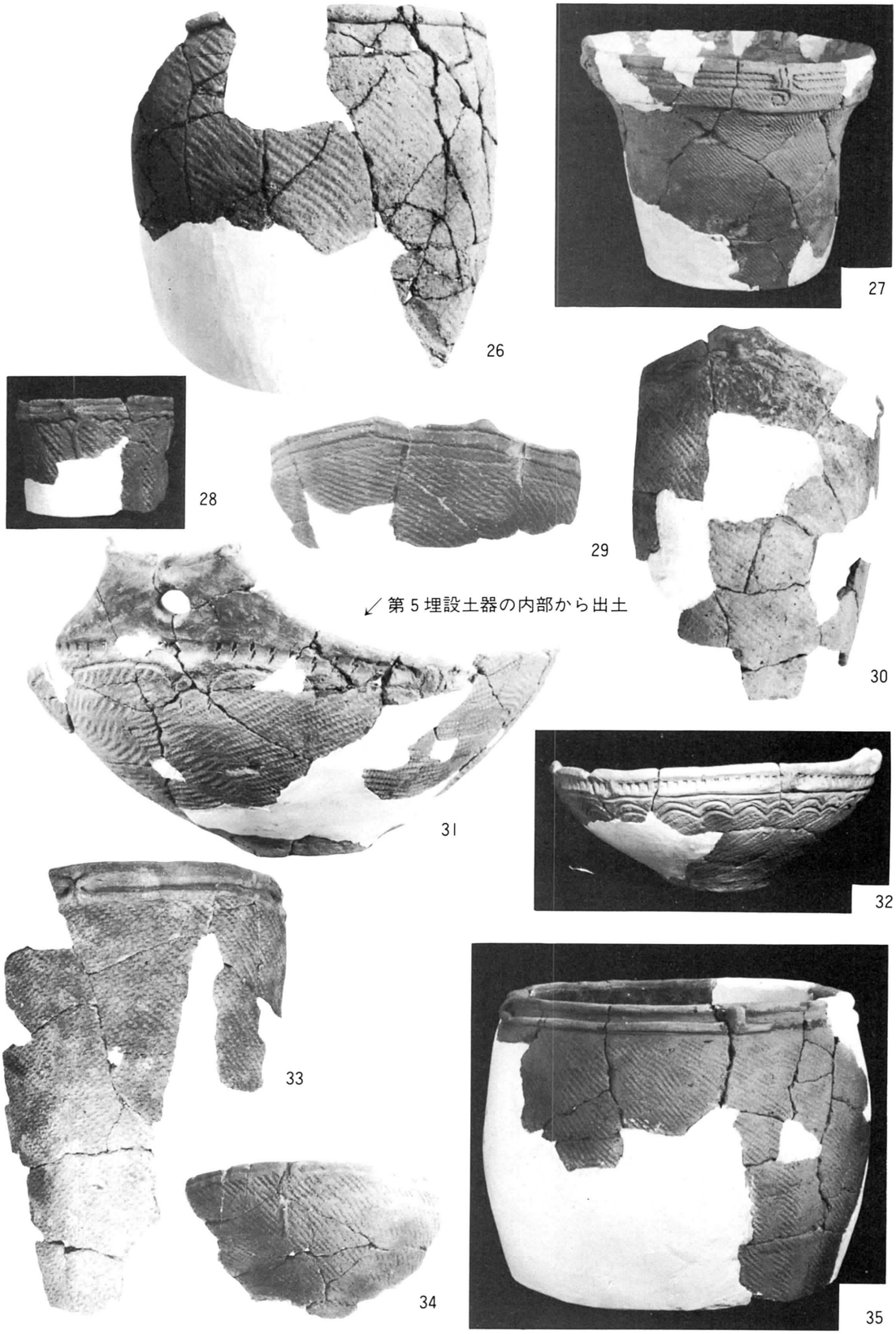
図版　4

遺物出土状況



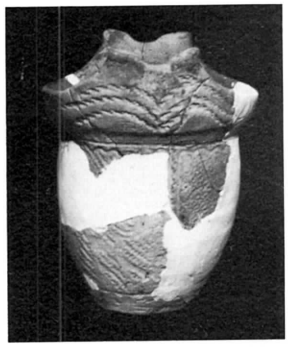
1．2（Ⅰ群Ⅰ類a）　3．4（Ⅰ群Ⅰ類b）　5．6（Ⅰ群Ⅰ類C）　7～13（Ⅰ群Ⅰ類d）
14．16（Ⅰ群Ⅰ類e）　15．（尖底部）　17～19（Ⅰ群2類）　20．21（Ⅱ群Ⅰ類）22～25（Ⅱ群2類）

図版　5　（25は1/6、他は1/4）



26.（II群３類）　27～31（II群４類ａ）　32.（II群４類ｂ）　33～35（II群４類ｃ）

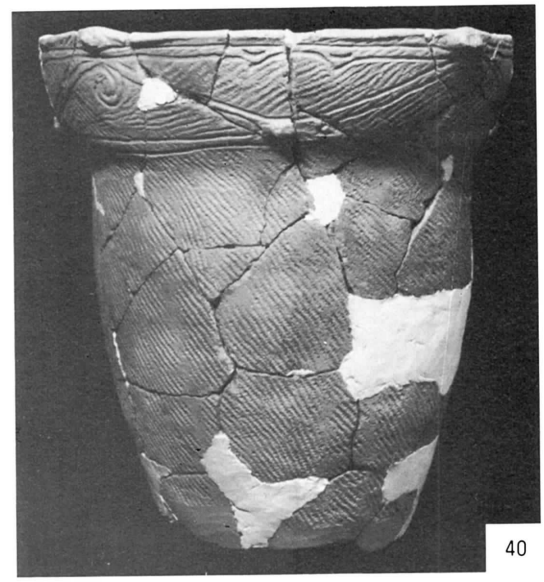
図版　6　（1/4）

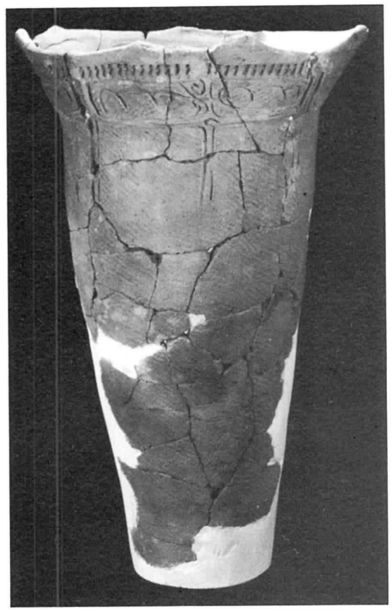

36

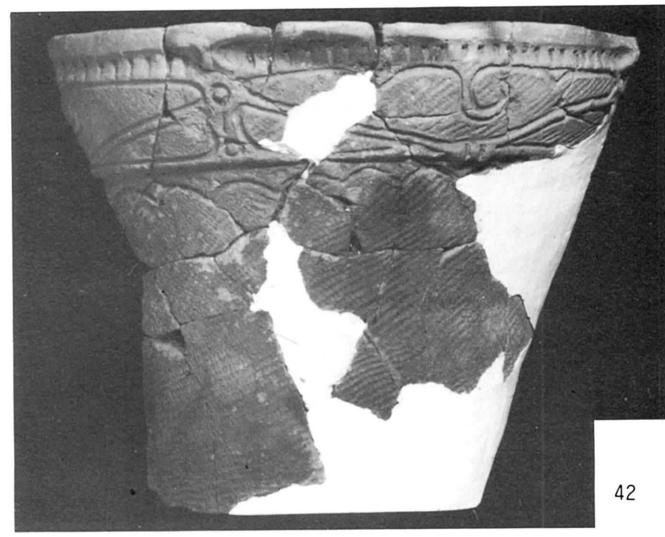
37

38

39


40

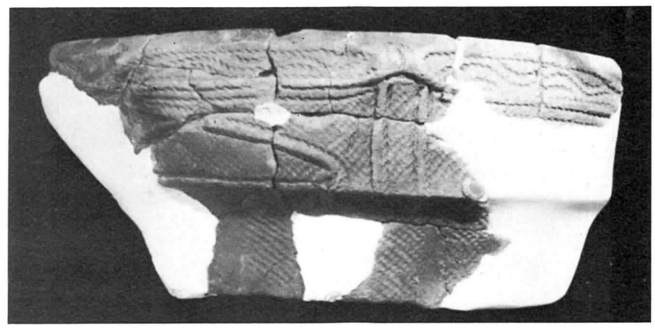

41


42

36.（II群5類a）　37～40（II群5類b_1）　41．42（II群5類b_2）

図版　7　（38と41は1/6、他は1/4）

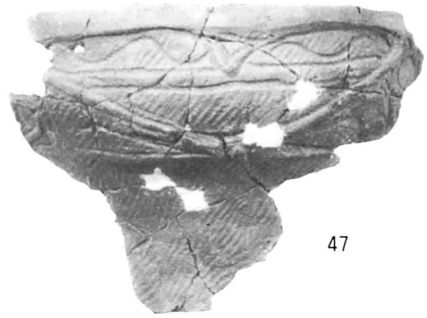
43



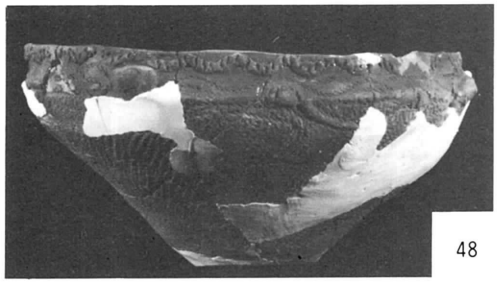
45

44

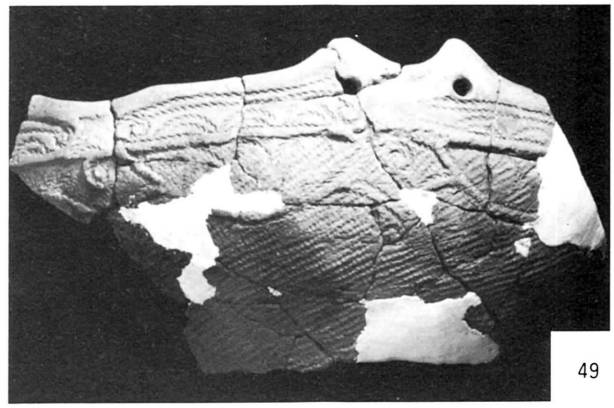
46



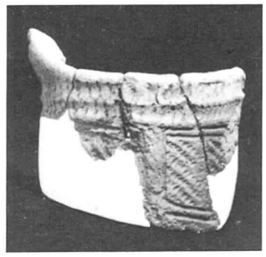
47



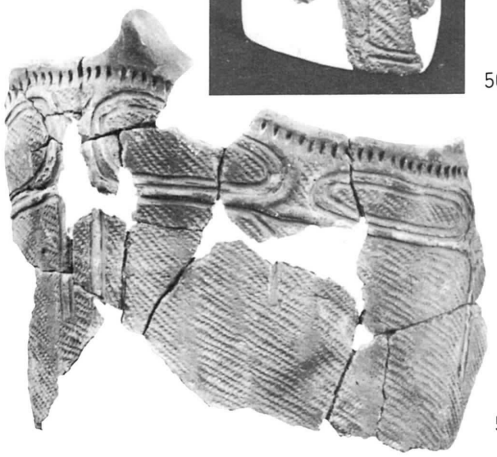
48



49



50



51

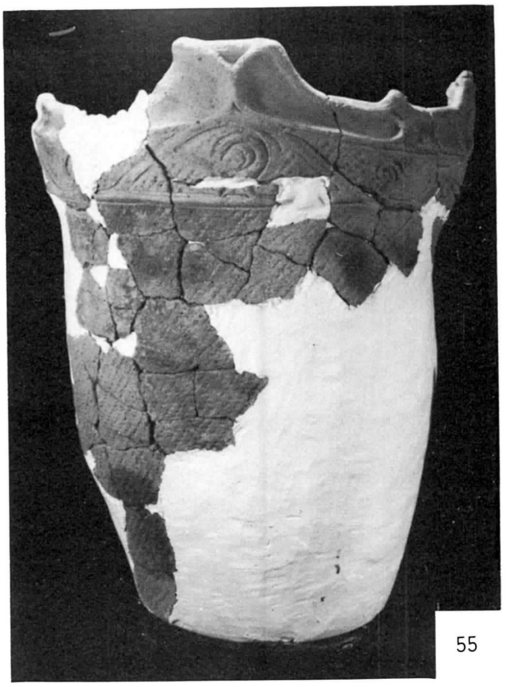
52

43．44（II群5類 c_1）　45～49（II群5類 c_2）　50．（II群5類 c_4）
51．（II群5類 d_3）　52．（II群5類 d_2）

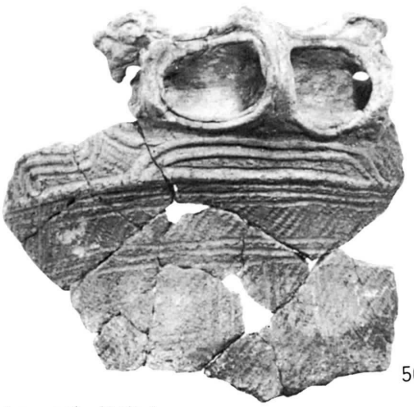
図版　8　（1/1）

53

54



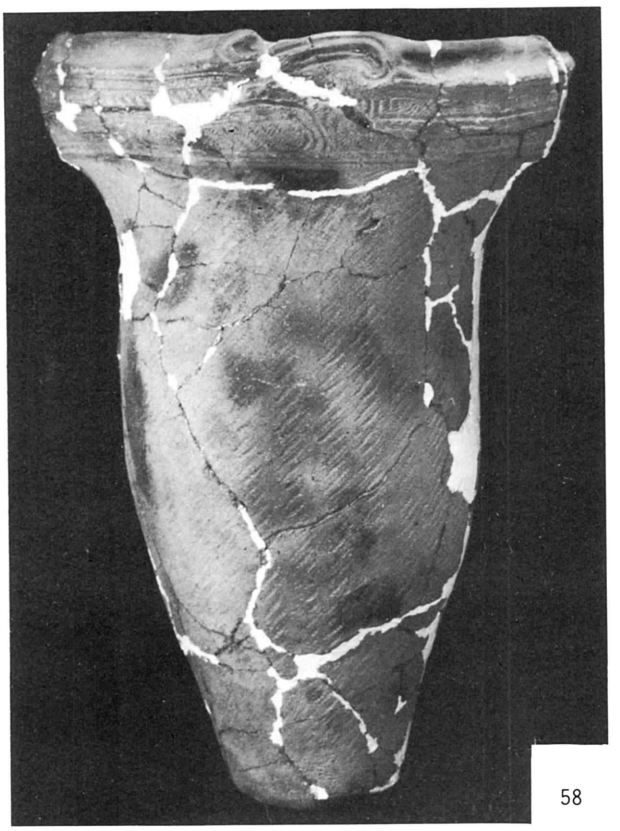
55



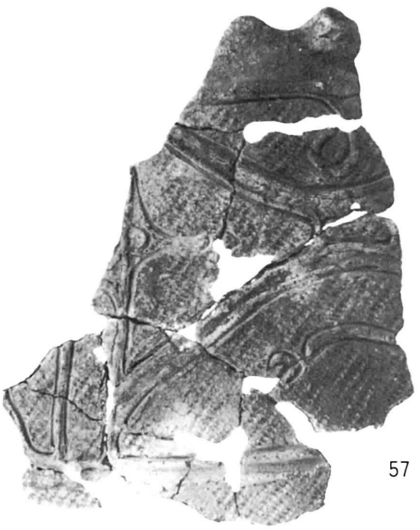
56

第 3 （Ba 80）住出土

第 6 埋設土器



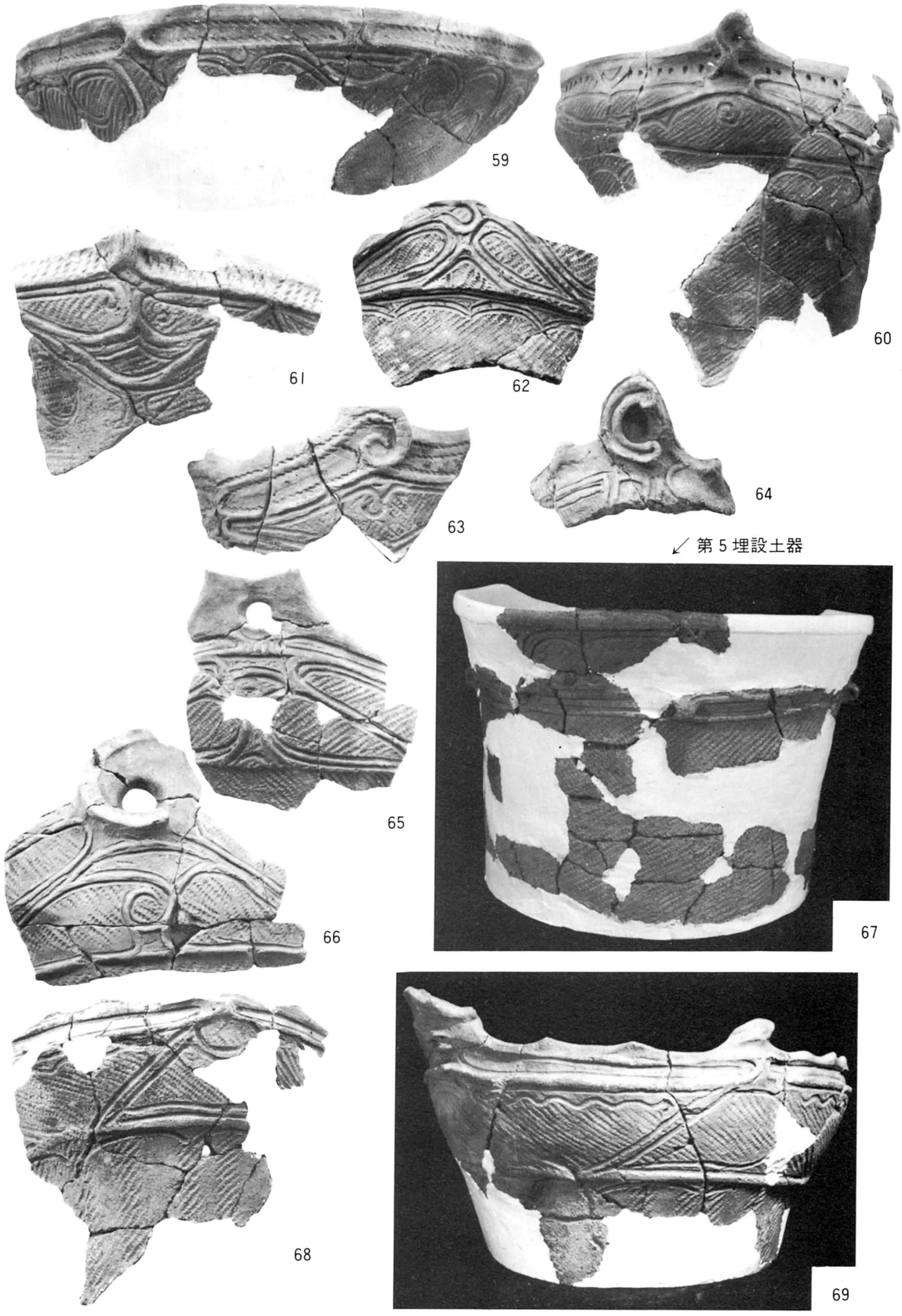
58



57

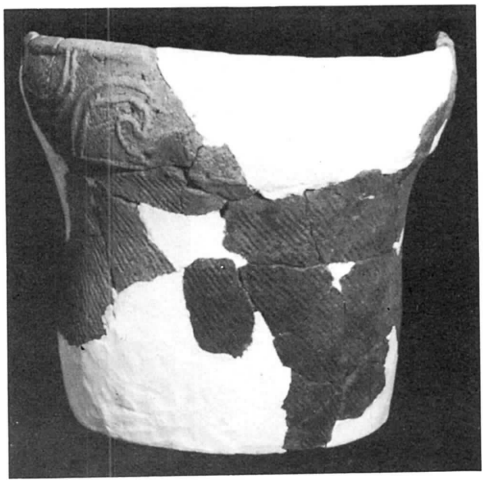
53～58（II群 5 類 d_4）

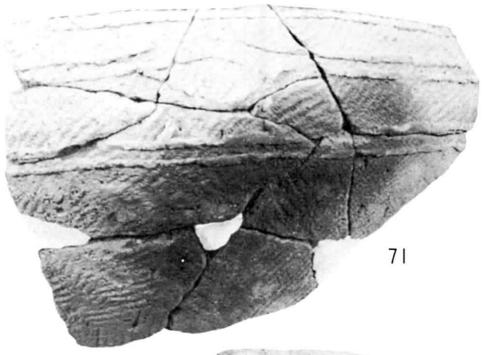
図版　9　（55と58は1/6、他は1/4）

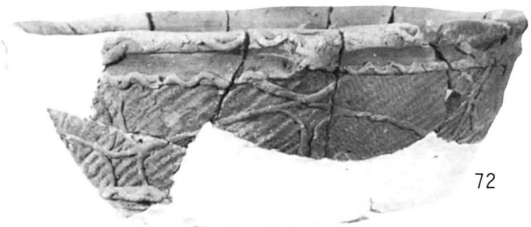


59. 61. 63（II群5類 d_2）　60. 65. 67～69（II群5類 d_3）
62. 64. 66（II群5類 d_1）

図版　10（67は1/6、他は1/4）


70


71


72

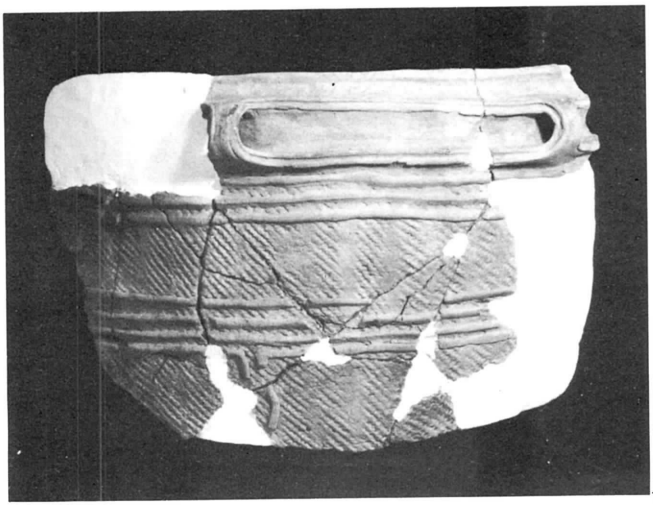
75

73

74

76

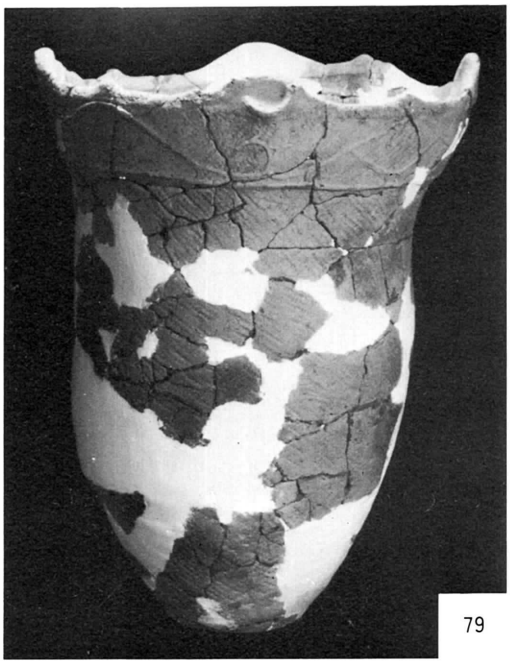
77


79

78

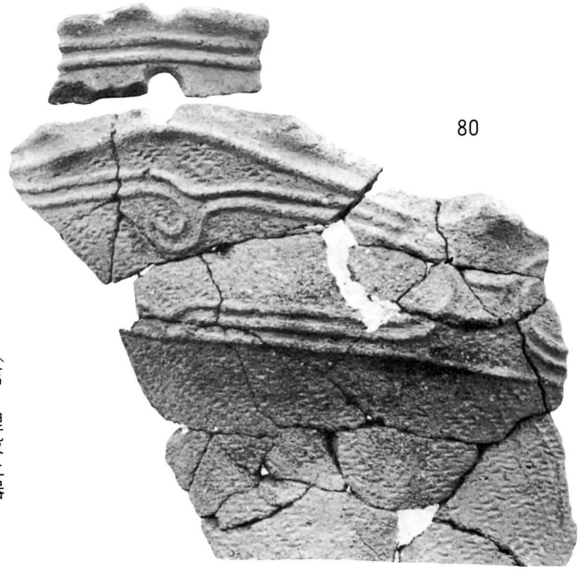
70. 71. 73～75. 77. 78（II群5類e_1）　72. 76. 79（II群5類e_2）

図版　11　（1/1）



79

↖第2埋設土器

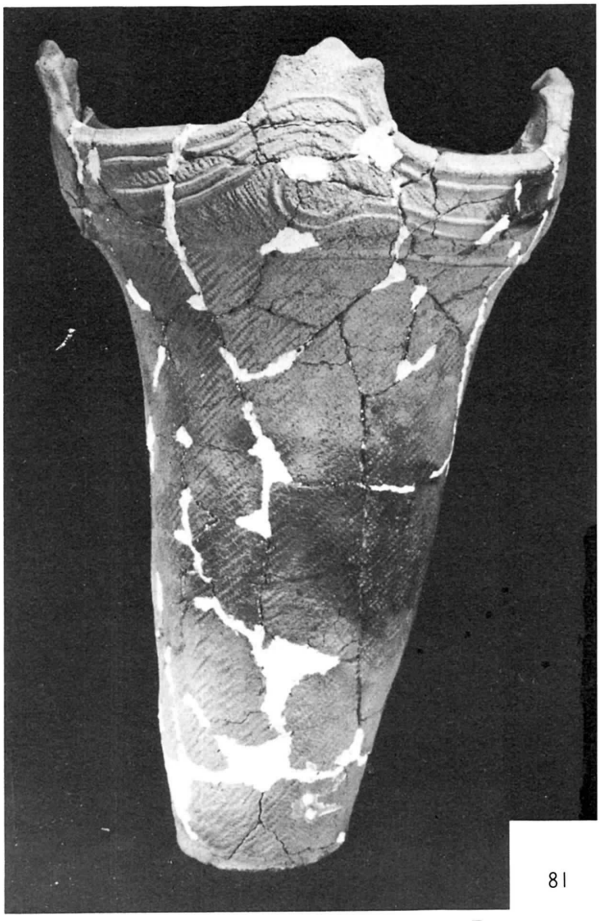


80

第3（Ba80）住出土↘

82

↙第6埋設土器



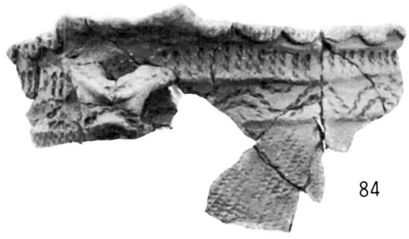
81

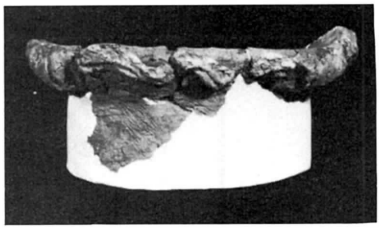
第3（Ba80）住出土↘

83

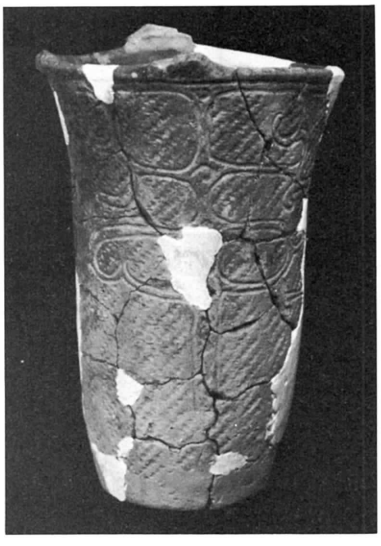
79. 82. 83（II群5類e_1）　80. 81（II群5類e_2）

図版　12　（79と81は1/6他は1/1）

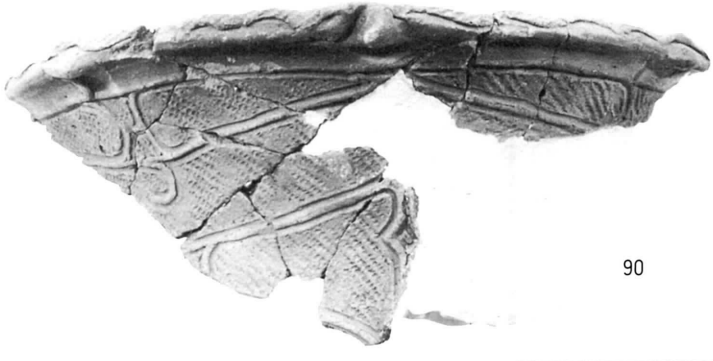

84


85

86


87

88


90

89

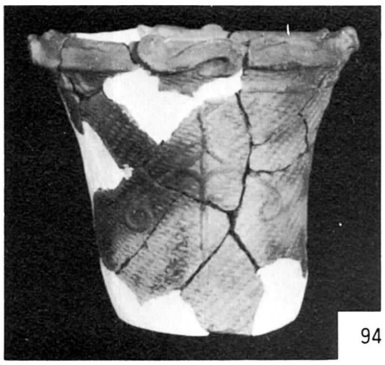
91

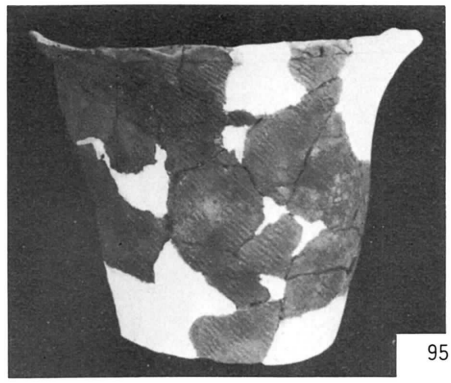
92

93

84～86（II群6類a）　87～89（II群6類b）　90～93（II群6類c）

図版　13（1/4）


94


95

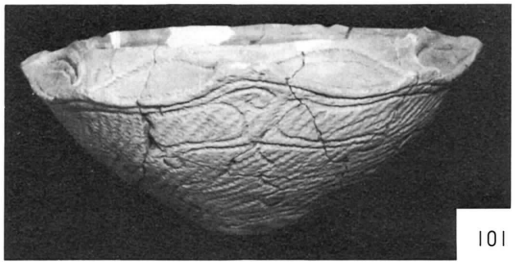
96

97

98

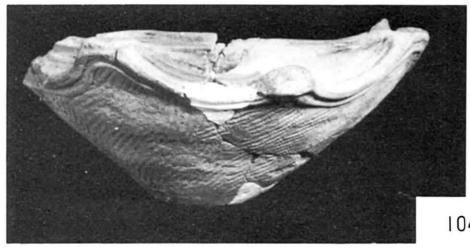
99

100


101

102

103


104

105

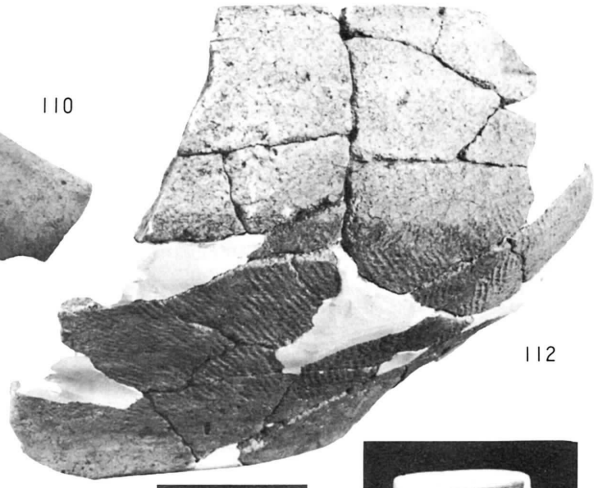
106

107

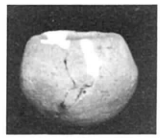
108

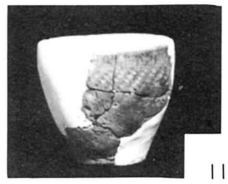
109

110


112

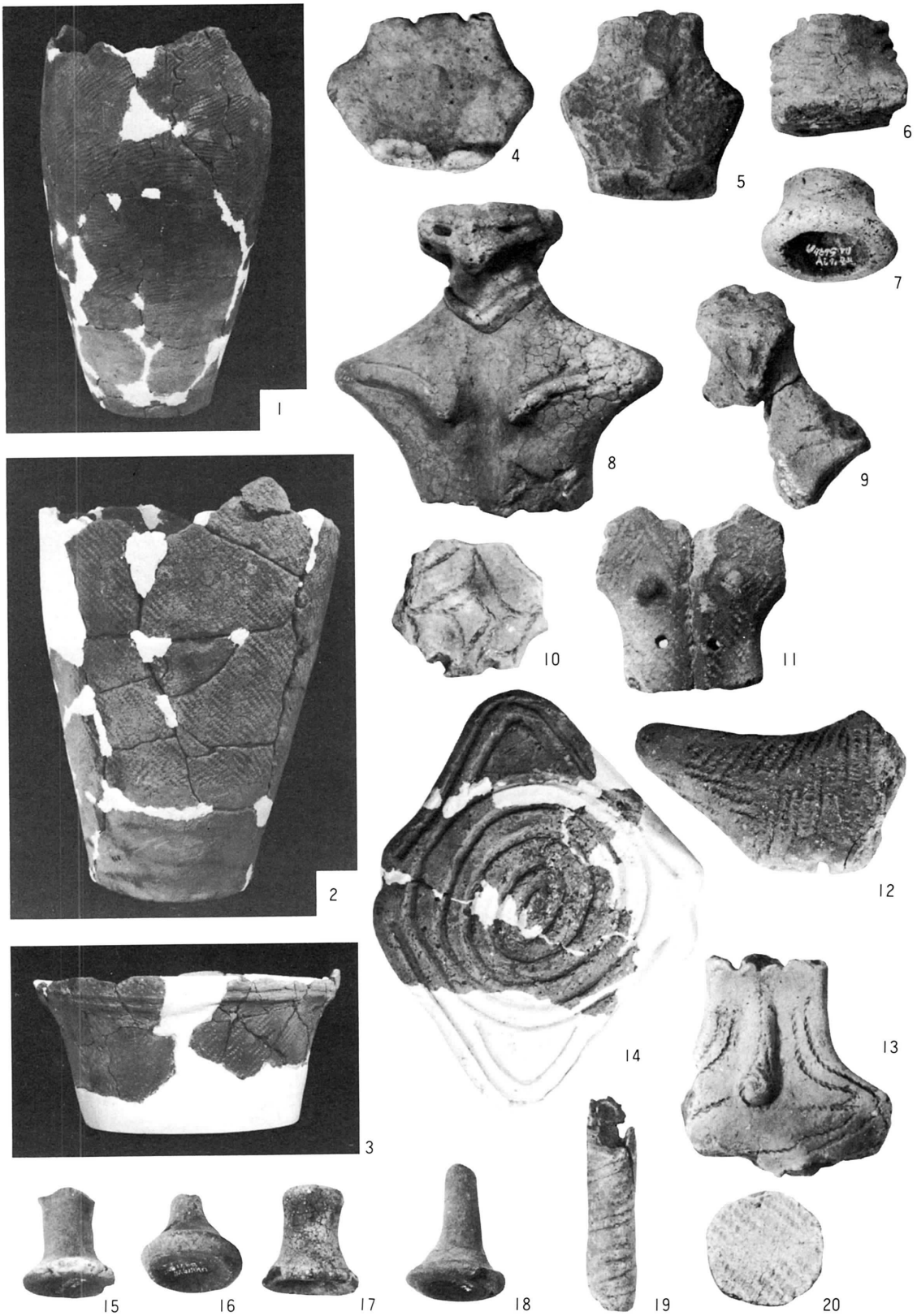
111


113


114

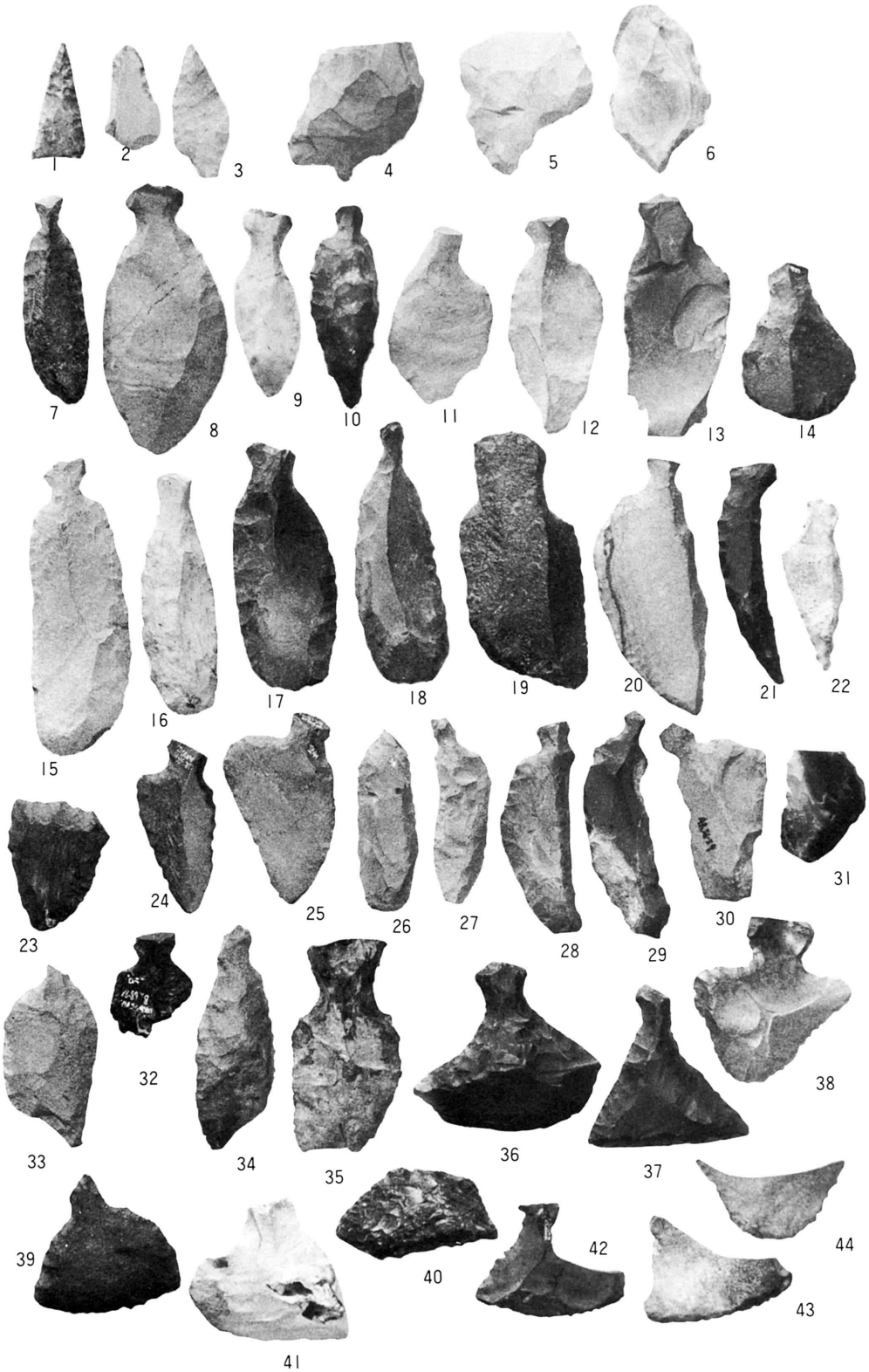
94～98（II群6類c）　99～104（II群7類）　105～109（II群8類）
110～114（II群9類）　113. 114（袖珍土器）

図版　14　（95は1/6、他は1/1）

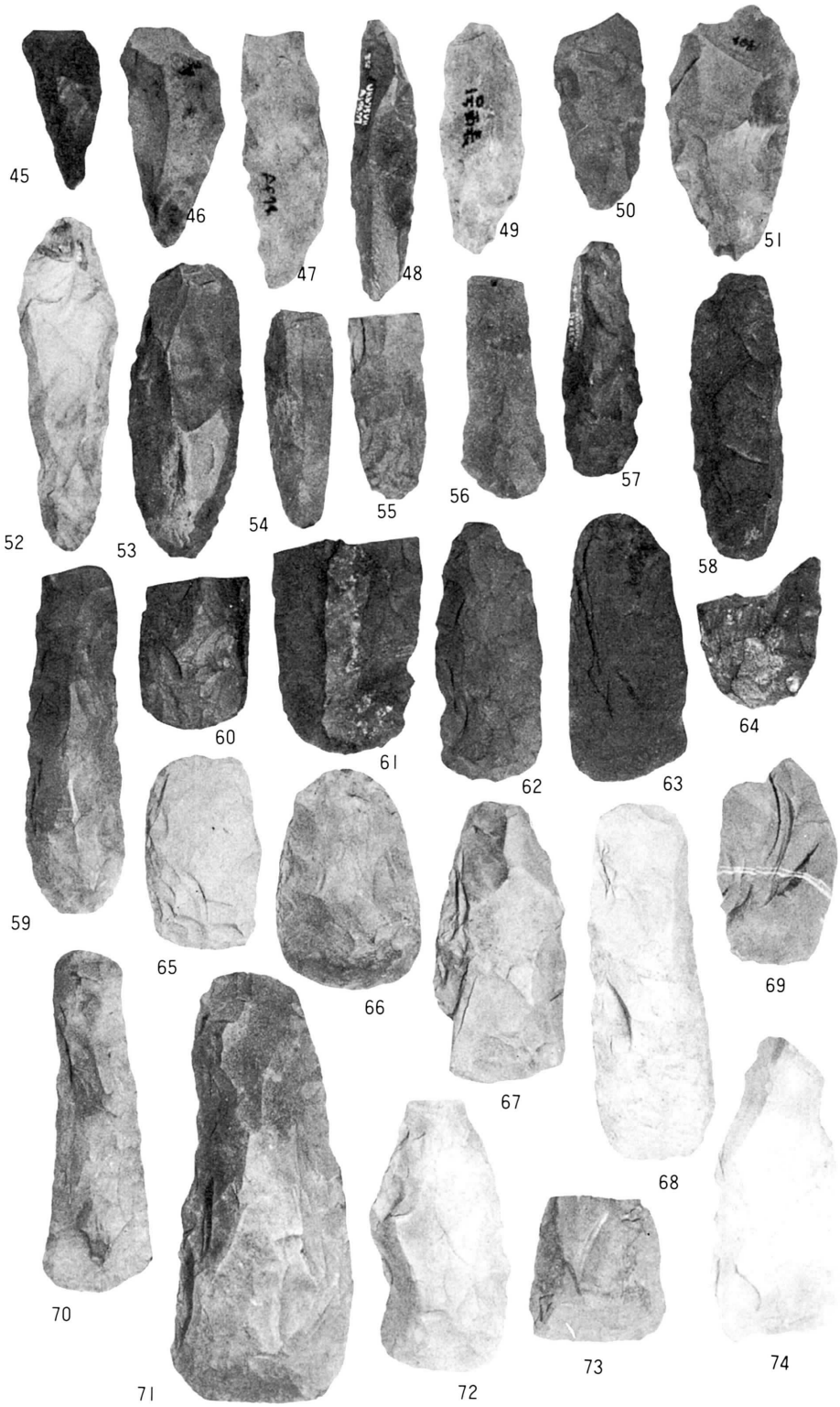


1．第1埋設土器　2．第4埋設土器　3．第7埋設土器　4～13（土偶）
17．（耳飾り？）　15．16．18（スタンプ状土製品）　14．（土版）　19．（管状土製品）　20．（土製円盤）

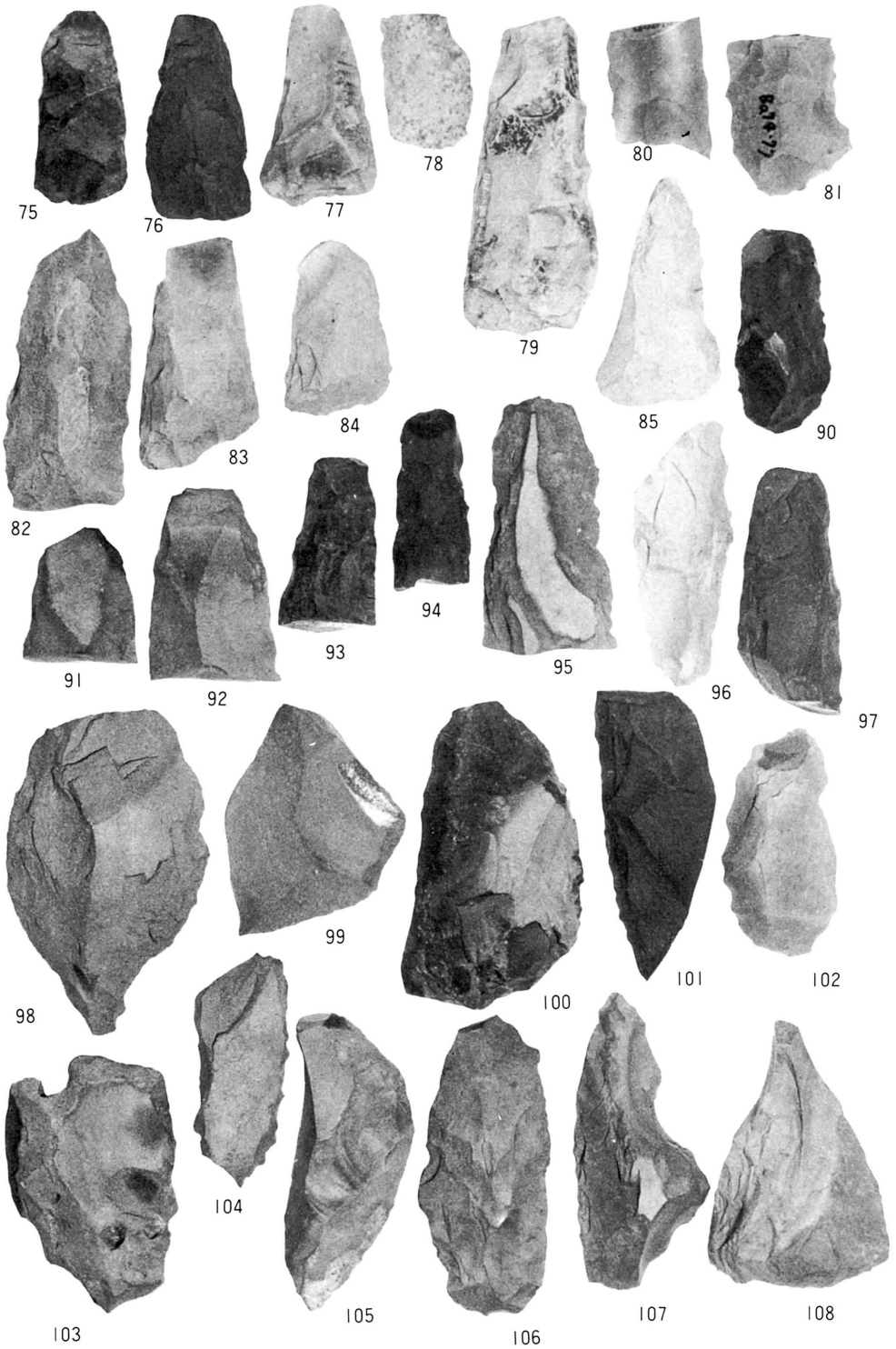
図版　15（1、2は⅙、3は¼、4～20は½）



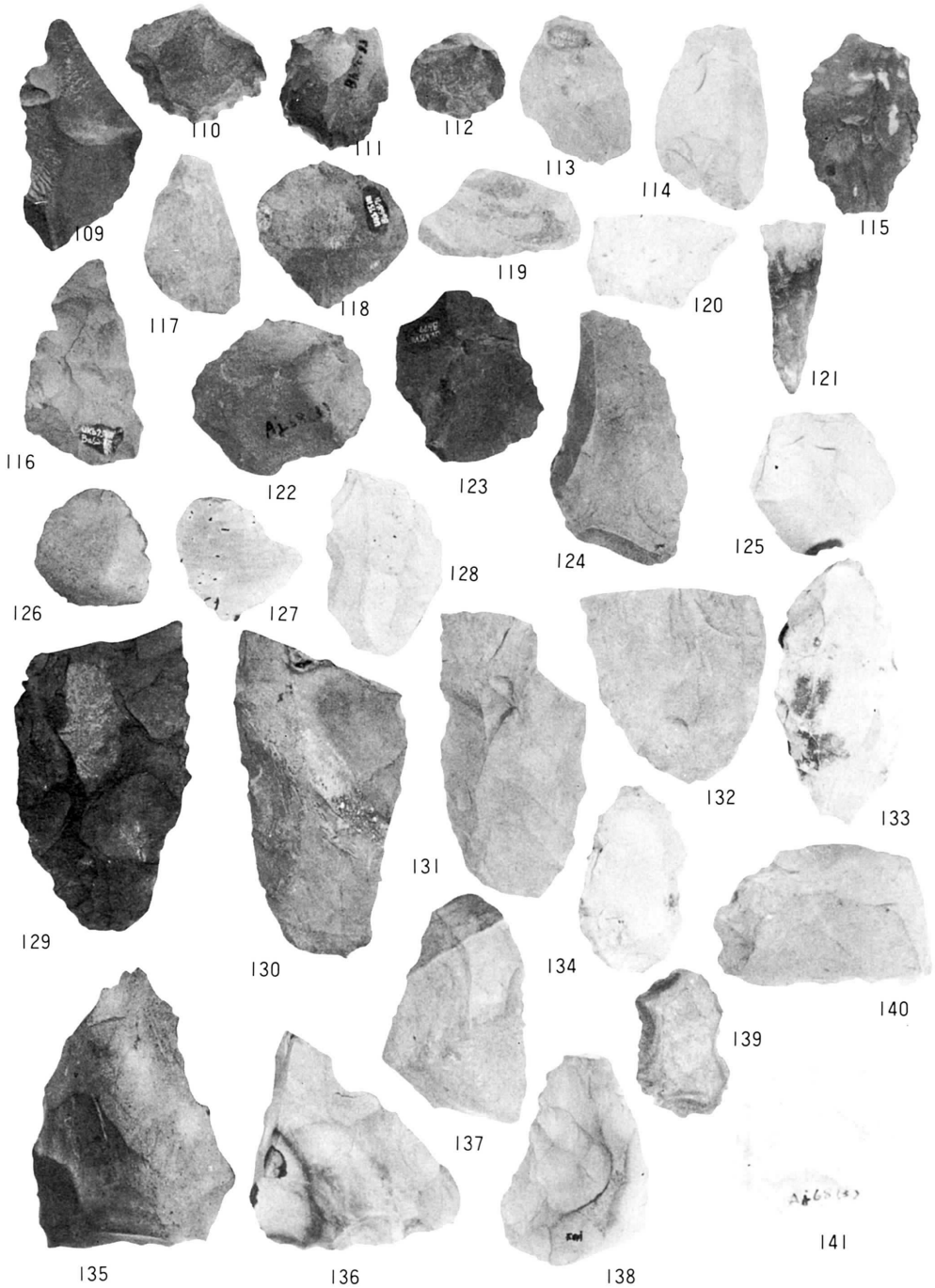
図版　16　　1～3石鏃　4～6石錐状石器　7～44石匙



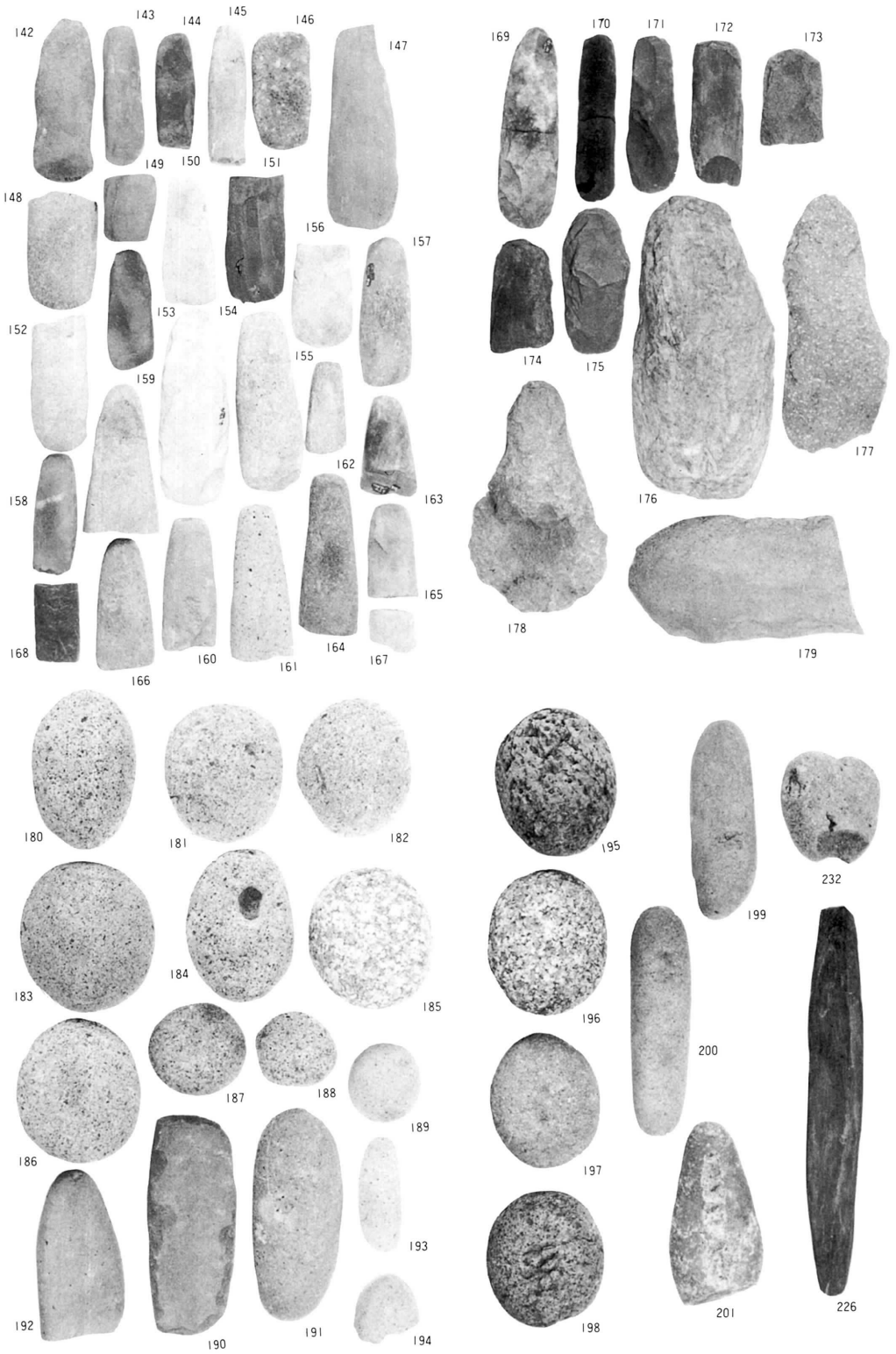
図版　17　45～74石篦状石器



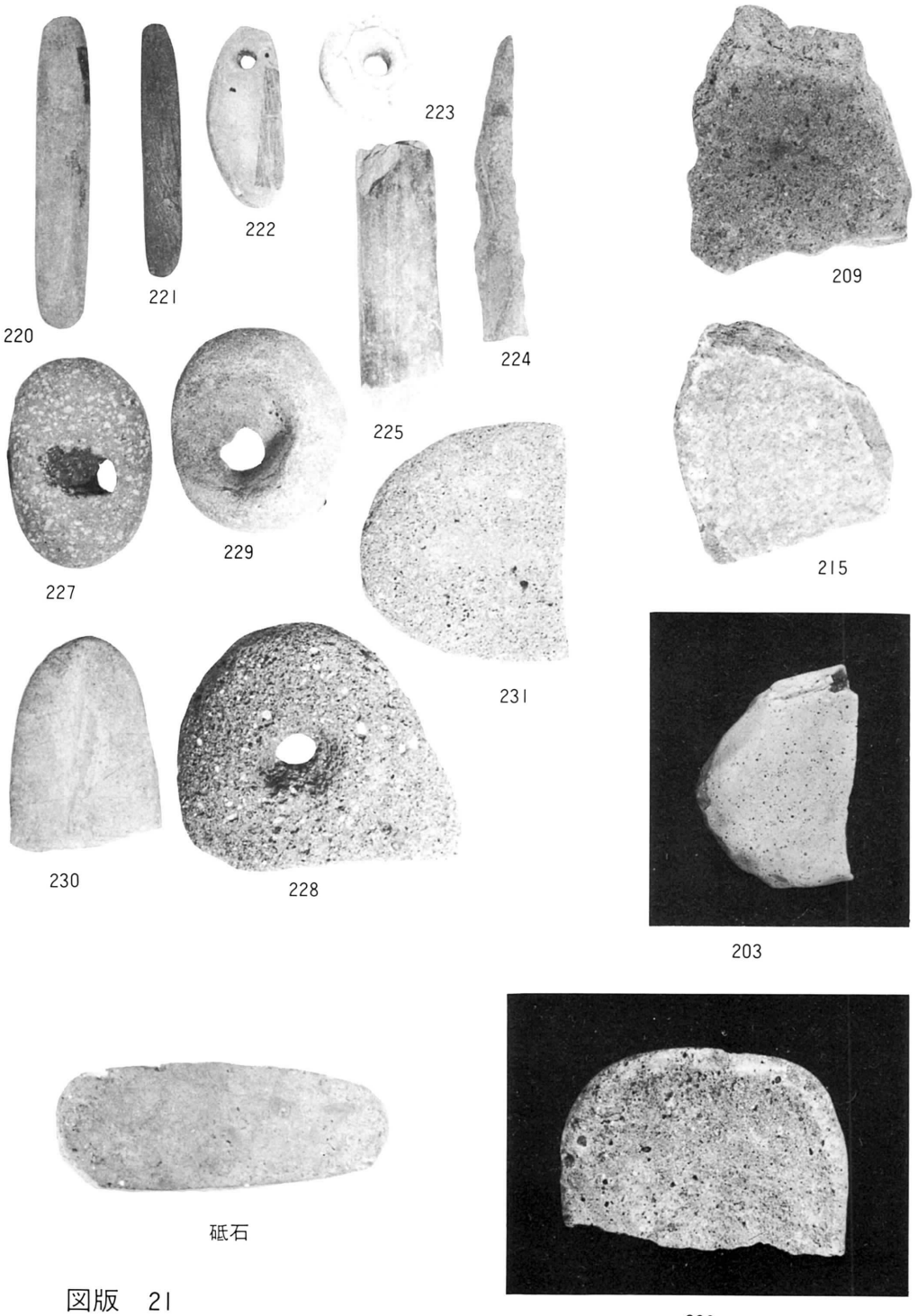
図版　18　　75～97石篦状石器　98～108掻器



図版　19　109～112掻器　113～121掻器（削器？）　122～128掻器（使用痕を有する剝片）
129～141掻器（その他）



図版　20　142～168磨製石斧　169～179打製石斧　180～194磨石
195～201凹石　232石錘　226石剣



図版　21

202～215石皿

220．221小型磨製石製品　222．227～229有孔石製品　224刺突具

225石剣　230．231線刻を有する石製品

岩手県教育委員会事務局文化課職員一覧
(埋蔵文化財関係)

文化課長	熊谷正男
課長補佐(総務)	鎌田良悦
(調査)	服部完郎
庶務係長	鈴木康之
主事	鹿糠幸弘
	佐藤伸一郎
主任文化財主査	嶋千秋
文化財主査	菊地郁雄
技師	佐々木勝

縦貫自動車道調査班

文化財主査	吉田努
	三上昭
	斎藤淳
	昆野靖
	相原康二
文化財調査員	八重樫良宏
	狩野敏男
	田村壮一
主事	石川長喜

臨時職員	木村キエ子
	桜井芳彦
	相星輝子
	高橋生子
	小西エイ子
	漆原悦子
臨時職員	亀ヶ森恭子
	藤原周子
	後藤裕子
	石田千鶴子
	村井隆
	小林史子
	村上良子
	小林三千江
	菊池純子
	鈴木優子
	赤坂恵子
	秋葉良子
	前田隆子
	田中ヒデ
	黒田アヤ子
	伊藤ふく
	及川容子
	長坂麗子
	中山久子(6月21日退職)
	佐々木信子(9月30日退職)
	高橋英子(10月16日退職)

岩手県文化財調査報告書第58集

東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅸ

昭和56年3月31日　発行

発行　岩手県文化財愛護協会
盛岡市内丸1

印刷　株式会社　富士屋印刷所
盛岡市下ノ橋町2—9　TEL (23) 6391